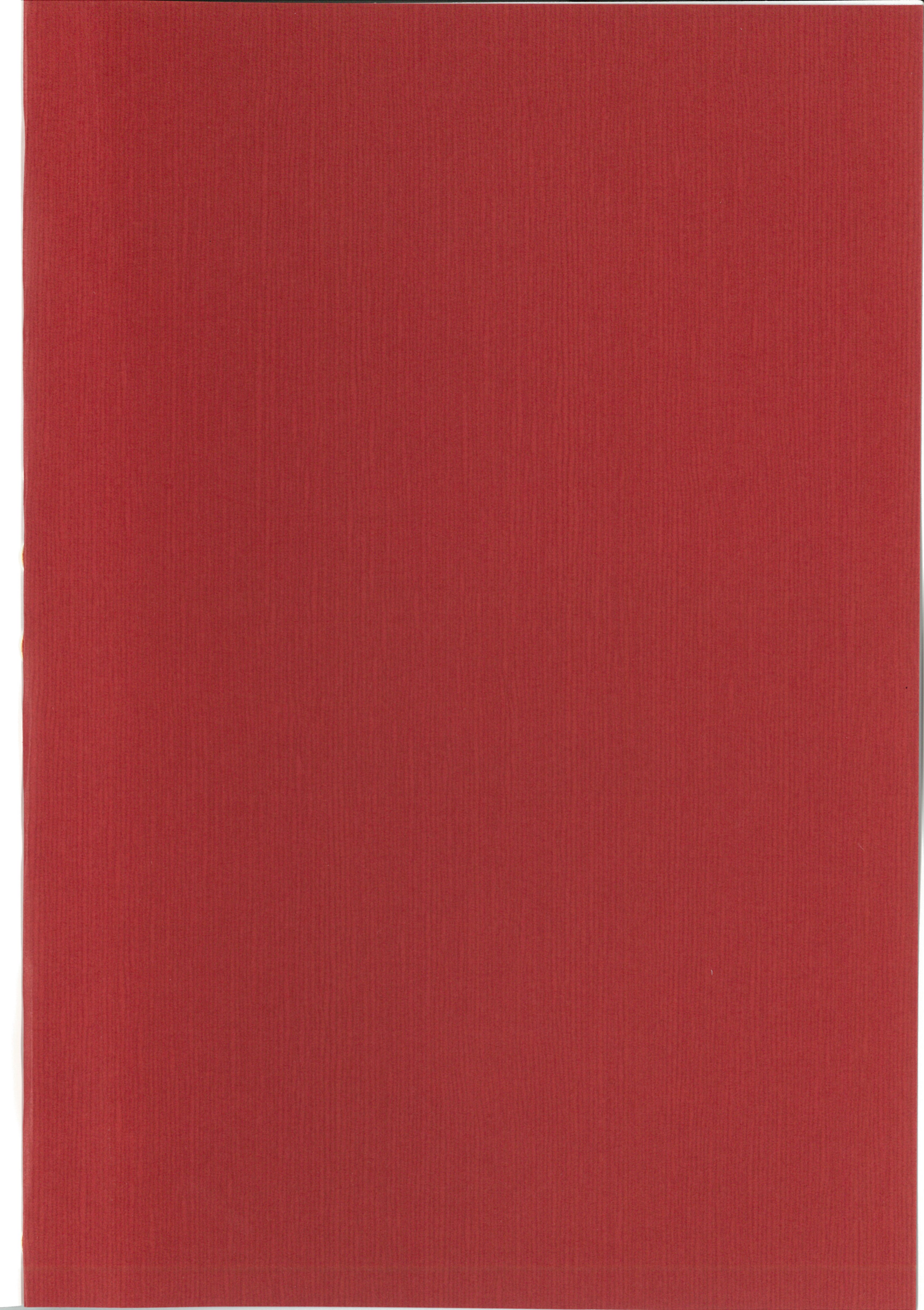


漕 魂

35 号

平成 25 年度

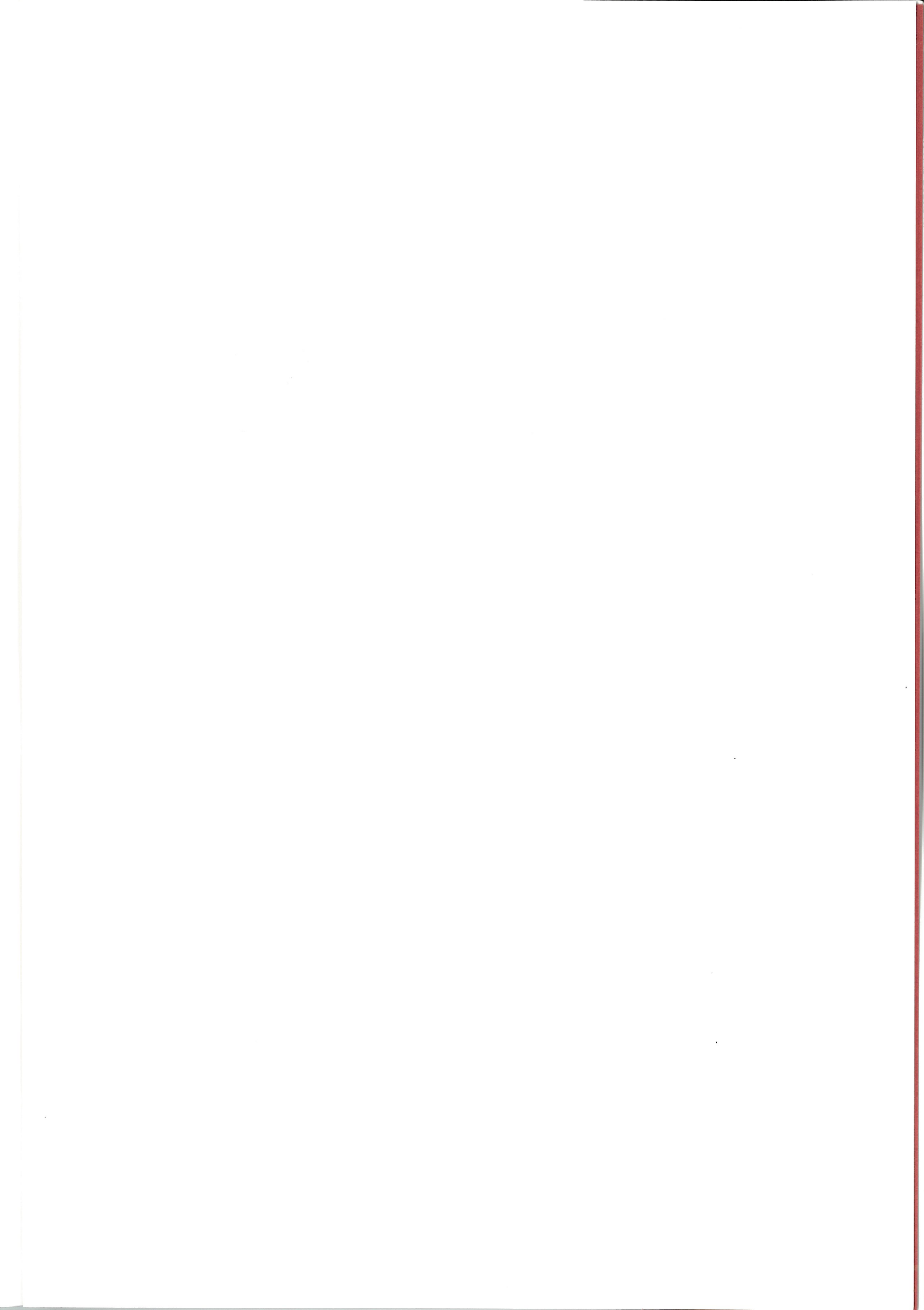
長崎大学医学部漕艇部



漕 魂

3 5 号

平成 25 年度
長崎大学医学部漕艇部



卷 頭 言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せ不るを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び歸ら不る

若き日の感激を謳わん。

漕魂の歌

作詞…今里雅之

作曲…岩谷 怜

一 街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二 水を切り 走る崎陽の

シユルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つの 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三 スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げろ コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

琵琶湖周航の歌

作詞・作曲…小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らけく

目 次

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿……………62

〈ご寄稿〉

部長就任にあたり……………	4
OB会費未納入の若手の先生方へ……………	5
そして草莽のボランティア(志士)達へ……………	5

〈活動報告〉

昨年度主将挨拶(川口)……………	7
新主将挨拶(児嶋)……………	8
新入生紹介……………	9
平成二十五年度試合結果報告……………	11
平成二十五年度コックス記……………	16
部員雑感……………	36
シエルフォア雄図廃艇式……………	46
雄図に永久の感謝を……………	47
平成二十五年度収支報告……………	48

〈OB会〉

長崎大学医学部漕艇部OB会会則……………	49
長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿……………	50
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿……………	60
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿……………	61

〈編集後記〉

ホームページ紹介、OBメーリングリストご案内……………	63
……………	64



西医体決勝前夜



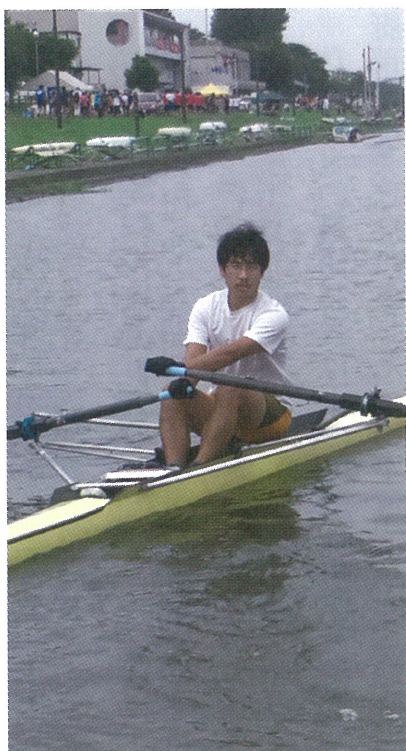
インカレ フォア



九朝



エルゴ練習



インカレ シングル福田



九山



雄図廃艇式

くご寄稿く

部長就任にあたり

熱帯医学研究所国際保健学分野 山本 太郎

丹羽先生の退任を受け、二〇一三年四月より、医学部漕艇部の部長となりました、山本です。先代の丹羽先生は長く部長の責を担われ、学生の面倒や、学生が卒業した後の大学院でも多くの漕艇部のOBの先生方の面倒を見、指導をしてきた先生です。どのように逆立ちしても、先生が果たしてきたそうした役割を果たすことはできません。ですから、学生と退任された丹羽先生あるいは他OBの先生との連絡役のような役割が果たせればと考えています。よろしく願います。

二〇一三年一月九日（チベット県境の街、シャングリラへ出発の前日）

（余談）

ここからは、いわばとりとめのない話、すなわち余談です。時間の無い方は飛ばしてください。

この原稿を書いている時点（二〇一三年二月上旬）で、多少考えていることを書いておきます。一つは一〇年後、あるいは二〇年後の漕艇部についてです。子々川で医学部漕艇部が、何人かの伝説的な先生方によって再興されたの

が、確か昭和四七年か四八年だと思っています（すみません、急いでこの原稿を書いているものですから、正確な年を調べるのができず）。それから、約四〇年が経過しようとしています。以降、部員も増え、昭和六三年頃には、OB会からの寄付によって現在の艇庫も完成し、西医体での優勝を果たすこともできました。ひとえに、先生方のおかげだと思っています。

他方、そうした興隆の歴史がある一方で、艇庫の老朽化、新艇購入や部員遠征にかかる費用とかなかなか増えていかないうOBからの寄付の総額といった事項、あるいは全国的に見れば、ボートそのものの競技人口が減少するなかで、ボート競技が学生スポーツとして存続できている、おそらく唯一の要因である、女子ボート部門の存在と隆盛といった話、長崎市内にボート部が医学部漕艇部しかないという現状、等々、中長期的には、私たちの漕艇部に影響を及ぼしそうな状況が見られる、というのが、現在の漕艇部を取り巻く現状かもしれません。

どの事項一つをとっても、容易に解答が見つかる、あるいは正解があると言った種類の問題では無いと思います。が、いずれは考えていかなくはならなくなる問題だという気もしています。みなさまの意見を是非、お聞かせください。

わたしはといえば、長崎大学医学部漕艇部が続いていくこと、それと長崎市内に多くのボートが浮かび、市民の楽

しみとしてのボートができること、それが最大の希望であり、また逆に言えばそれ以上の望みはありません。

時々、浦上川のほとりを夕暮れ時にジョギングします。暮れなずむ川に長崎西高等学校のカヌーが浮かんでいて、その長く伸びる陰影が、なんともいえない郷愁を誘います。それがフォアだったり、エイトだったりすれば、なお「いいな」と思う、それだけのこともありませんが。

OB会費未納入の若手の先生方へ

市川 辰樹

OB会会員のみなさまのOB会費でボート部の運営は成り立っています。

現役部員がいちいちお伺いしなくてもいいように今のシステムになっています。

若いOB会員の納入が極めて悪いのは長崎大学医学ボート部OBとしての自覚に欠けているとしか言いようがありません。

今年は未納入者にはOB会幹事から督促をするような手間をかけています。

なにも言わなくても、どんなに忙しくても毎年納入してください。くださっているOBの先生方がほとんどです。

読者の皆様はこの若手OBの嘆かわしい現状をどのようにうけとめるでしょうか。

自分たちの現役時代の活動資金はOB会費から出ていたことを思い出して頂きたい。

以上を持って寄稿文といたします。

そして草莽のボランティア（志士）達へ

医療法人春回会井上病院 形成外科麻酔科

福井 雅士（平成四年卒）

三年前、東日本大震災の被災地では、そのあまりにも甚大な被害のために、多くの同胞が極限の苦痛と悲しみのどん底に突き落とされ茫然自失としか言いようのない状況もかしこで見られていた。しかし現地にあったのは実は絶望だけでは無かった。これまで見たこともないような日本人の日本人たる希望も生まれていた事を忘れてはいけない。私が活動した福島県南相馬市でも、あの震災直後の混乱と恐怖の中で自らの危険を顧みず無数の草莽の志士達が活動していた。我々の子孫の為、また我々の先祖や我々自身の為にもその事を伝え残さないといけないという気持ちで最近強くしている。

平成二十三年四月三日、井上健一郎先生と私は、福島県

南相馬市で自衛隊や消防、県や市の職員達とともに三〇km圏内の在宅患者さん達の巡回診療に従事していた。原発事故による避難指示や風評による混乱で多くの住民が避難し、都市としての全ての社会的機能が麻痺してゴーストタウンと化した南相馬市では、それまで在宅診療を支えていたハードやソフトの基盤が破壊され十分な在宅ケアが供給できない状態に陥っていた。供給どころか正確な情報さえ把握できない非常な焦燥感を現場スタッフは抱えていた。原発四号機の使用済み燃料棒貯蔵プールの危機が報じられる中、私達が最初に行ったのは情報の収集だった。朝の冷え込みの中、梅が咲いていた。

どこにどんな患者さんが、どういう状況で取り残されているのか？をできるだけ詳細に把握し全体像を掴むこと、その為の基礎資料を提供してくれたのは現地の医療スタッフや保健師さん達と、そしてボランティアだった。震災の発生直後から現地に踏みとどまっていた多くの保健師さん達とボランティア達は、地道な情報収集とその情報に基づく食事の配達活動が続けていた。この活動が無ければまず飢餓の問題が表面化してはいただろう。

私達は、その貴重な資料に基づいて出来る限りの巡回診療を行い、新たな患者さんの掘り起しと避難所での診療、更に後続チームによる継続的な診療に繋げる事に成功した。五月中旬に現地の在宅ケアの回復を待つて、私達長崎県医師会JMATのミッションは終了した。長崎は既に

つつじの季節だった。

この経過の中で、やはり初期の動きが重要だったと言わざるを得ない。現地に踏みとどまってくれた方達が居てくれてこそ、その後の活動であり、また初動での食事の供給や情報の保持が多くの人々の生命を救うことになったのは疑いの余地がない。しかもこの方達はほとんど手弁当で参加していたボランティアだった。医療スタッフ、保健師さんや県や市の職員、消防、警察、海保、自衛隊に至るまで皆志願して踏みとどまっていた。目に見えない放射能の恐怖や余震の中、皆日本を救いたい一心で仕事していた。こうした同胞がいる限り、今後どんな厄難が襲って来ようとも日本がつぶれることは絶対にならないだろうと強く感じた。この志士達の献身的な活動こそが私が厳しい現実で見た最大の希望であり、日本人の日本人たる矜持にも繋がっていくかけがえのない日本人の神髄だった。東北の復興と日本の再生への戦いの狼煙は確実にここにつながっていたのである。

帰路の機上から見た福島山河は実にどこかで優しく美しかった。それは大地震、大津波、原発事故などといった忌まわしい言葉にはとてもとても似つかわしくない、神々しい美しさだった。不覚にも涙がこぼれた。

平成二十六年早春ほころんだ長崎の梅花。フィリピンの台風被災者にも思いを寄せつつ、原発事故の本当の意味での終息と、一日も早い東北の復興を祈らずにはられない。

《活動報告》

◆昨年度主将挨拶◆

四年 川口 雄史

昨シーズン漕艇部主将を務めさせていただきました、川口雄史と申します。まず始めに学内の先生方を始めとして、長崎大学医学部漕艇部OBの先生方より多くのご支援、応援を頂きましたことをここに感謝申し上げます。時には試合会場まで足を運んで応援していただき、私達部員の大きな励みとなりました。ありがとうございます。私達の学年は一年生のときから渋谷さんの指導のもと、部として西医体だけでなくインカレも目指して練習に励んで参りました。幹部学年になった今年こそ良い結果をとの思いで昨シーズンを迎えましたが、西医体で見事入賞を果たした新人クルーを除き、目標としていた結果を残すことができず、主将として責任を感じ、申し訳なく思っております。

昨シーズンの反省として一番大きいのはフィジカル面の弱さだったと思います。この事については以前から指摘されていましたが、昨シーズンのチームは、他チームに比べ部員の体格、パワーの弱さが目立ち、エルゴタイムも良くありませんでした。私個人としても、力の差を技術で補お

うという、今となつては浅い考えが少なからずあり、フィジカルの弱さを自覚しながらも、それを改善することができませんでした。原因としては午後練のエルゴや筋トレを充実させることができなかったことにあると思います。学校のカリキュラムなどもあり、午後練を個人に任せてしまつて上手く管理できていない部分がありました。また練習以外の日頃の生活においても、特に食事の面では、合宿所で生活する他大学の学生に比べると量と質が劣り、結果的にそこが力の差になりました。まずは午後練のやり方を改善し、エルゴタイム、体重をしっかりと管理することが必要だと思います。そして、目標を明確に定め、それを日頃から意識した生活を送る必要があると思います。昨シーズンの良かった点としては乗艇練習を充実させることが出来たことが挙げられます。週末の午前午後二五kmの練習などハードな練習もありましたが、部員みんなが良くついてきてくれたおかげで、乗艇距離においては他チームにも引けをとらず、基本的な乗艇技術は良いものが身に付いていると思います。次期主将の児島のもとさらに練習の精度を高め、目標とする結果をだしてくれることを期待しています。

ボート部員として過ごしたこれまでの学生生活を振り返ると、本当にボートのことだけしか考えていなかったように思います。楽しいことばかりではありましたが、これは私自身の短い人生のなかでも誇りに思えることで

す。コーチの渋谷さんには医学部生でありながら、他学部の学生と競ってトップを目指すことの面白さ、難しさを教えていただき、世界が広がったように思えます。また引退した先輩方には、よく相談に乗っていただき、いつも部を支えて下さったことを本当に感謝しています。一つ深く後悔しているのは、部の方向性をなかなか一つに定めることができなかったことです。どの代もそうだとは思いますが、個人の目指すものや意識の相違が幹部内で良く揉める原因となりました。主将としてまとめる力が及ばなかったことを深く反省しています。また私の責任感の足りなさで、幹部学年、後輩のみんなには多々迷惑をかけることがあり、反省しております。夏で現役を引退することとなりましたが、私はこの部活に所属していることを誇りに思うとともに、この部活、部員が大好きです。今後とも、部活の大きな繁栄につながるよう、部員一同精進して参りますので、暖かいご支援、ご協力のほどをよろしくお願い致します。

◆新主将挨拶◆

三年 児嶋 知仁

今シーズンより漕艇部主将を務めさせていただくことになりました児嶋知仁と申します。

今年行われた西医体やインカレでは思ったような結果を残すことは出来ませんでした。しかし、結果は出てしまった以上、来年度で結果を残すためにどうすべきかを考えなければなりません。

まず、ここ数年指摘され続けているフィジカル面をもっと徹底的に強化すべきだと感じました。西医体においても、インカレにおいても、結果を残したクルーは屈強な体格をもったクルーでした。大会のパンフレットに掲載された、各クルーの身長や体重などを見てもそれは明らかだと思います。秋シーズンや、冬シーズンでは、西医体などの夏の大会は意識しづらいものです。しかし、ボートにおける技術の向上や、フィジカル強化は一朝一夕で出来るものではありません。これらはシーズンを通した高いモチベーションの維持によって出来ることだと思います。そのためには、部員が一丸となって目標に向かって練習に励むだけでなく、それぞれの部員がその目標を達成するために何が必要なのか、自分で考え行動することも重要です。部内やクルー間でのミーティングをもっと活発に、自発的にを行い、良かったときと悪かったとき、それぞれフィードバックし、試合を意識して一回一回の練習にもっとこだわっていきましょう。

また、漕艇という競技は故障者を出しやすい競技だと思っています。実際、私達の代はほとんどの部員が故障を経験しています。しかし、部員の故障というものは故障した部員

◇新入生紹介◇

磯辺 優作

だけでなく、周りの部員のモチベーションの低下にも繋がります。故障者を出さないためにも、コックスをはじめとしたそれぞれの部員が自分自身だけでなく、クルーや周りの部員のコンディションもお互いに管理しあうべきだと思います。部員が故障して長時間練習に参加できなくなる、といったことが極力起らないよう、ストレッチやケアの時間をしっかりと確保できるようにしっかりと注意を喚起していると思います。

現在エルゴにおけるトライアルなども定期的に行い活発な部内競争も行っています。一年生の成長はめざましく、上級生も負けじと努力しています。ウェイトトレーニングにしても部員全員が徐々に高い負荷でのトレーニングを行えるようになってきており、今の努力が大会で実を結ぶと信じています。まだ秋、冬シーズンは始まったばかりですが、課題を一つ一つクリアしていくため限られた時間を大事に使っていかなくてはなりません。部員がお互いに切磋琢磨しあい、良い結果を残せるよう頑張っていこうと思います。こうして私達が充実した部活動に専念できているのも多くのOBの先生方によるご支援、ご協力のおかげであり、本当に感謝しております。今後とも暖かいご声援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

ザ・無尽蔵の体力。トライアスロンをやっていた彼はエルゴタイムは学年一位、上級生を脅かす存在であり、それに加えコックス途中に寝るという豪胆さを併せ持つエース候補筆頭と言っても過言ではない存在。そんな将来有望な彼の私生活は、友達が多い。が、彼女が半年いない間になが起きたのか、とうとうセックスする気が起きないと言いついてしまった。悟りを開いた釈迦のような彼をどうか人間に戻してあげて下さい。

下永 晃一郎

磯辺と仲良しの小倉っ子。顔がM野さんに似ているため、今でも二人を間違える人が後を絶たない。ボート部からの勧誘メールを迷惑メールと思い、アド変をしておきながらボート部に飯を食わせて下さいと頼みに来るほどの図太さを持つ。「もう無理ですう」とオネエっぽい口調で辛い練習をかわそうとする戦術を、上級生に気付かれているのに使い続けている。そんな下永だが、やるときはやる男。乗艇技術もエルゴタイムも着々と伸びてきております、飲み

会での飲みっぷりもなかなかのもの。今後の活躍に期待！

白石 健悟

期待の新人であり彼を表す四字熟語はあまた存在する。容姿端麗、頭脳明晰、運動音痴、一発芸人。ただただ、一発ギャグが面白い彼。しかし、あらゆる方面からの期待が熱いです。実は頭がいいとか…。個人的には一発ギャグのセンスのみしか評価していません。しかし、彼なら更なるポテンシャルを見せてくれるでしょう。楽しみましょう、漕艇ライフを。

徳永 高帆

一見軟弱だが、実は根性がある。

レースやエルゴーム終盤に見せる粘りは武器になる。

その眼鏡の奥の眼差しには狂気が見え隠れ。

開花しないよう、つぼみのまま静かに育てていきたい。

そしてとにかく、勢いがある。

この勢いをボートに向ければ、きつとすごいことになる。

今のところちよつと向きがずれてる気がするけど、

それを修正するのは上級生の使命だ。

共にトップを目指そう！

平成二十五年度的試合結果報告

九州・山口医科学生体育大会

斑蛇口湖

男子1× 決勝1

一位	中村 (佐賀)	三分五八秒五一
二位	銀矢 (熊本)	四分二五秒八七
三位	福田 (長崎)	四分二七秒七六
四位	松風 (熊本)	四分五三秒六三
五位	鶴居 (佐賀)	棄権

男子1× 決勝2

一位	中村 (佐賀)	四分〇三秒五〇
二位	福田 (長崎)	四分三五秒六八
三位	銀矢 (熊本)	四分三七秒七五
四位	松風 (熊本)	四分五五秒九二
五位	鶴居 (佐賀)	棄権

長大シングルは二位

男子×2 予選

一位	飛燕 (熊本)	三分五六秒五二
二位	如水 (熊本)	四分〇二秒一一
三位	長崎大学ダブル (長崎)	四分〇三秒二三
四位	太陽のラガー (宮崎)	四分一三秒二三

男子×2 決勝

一位	宗凜 (佐賀)	三分五三秒九二
二位	長崎大学ダブル (長崎)	四分〇八秒六九
三位	飛燕 (熊本)	四分〇九秒五四
四位	如水 (熊本)	四分一三秒九二
五位	浜木綿 (宮崎)	四分二五秒三五
六位	照葉Ⅱ (宮崎)	四分二九秒三一

男子4+ (一般) 予選

一位	蓋世 (長崎)	三分三九秒五七
二位	龍神 (熊本)	三分五一秒九二
三位	葉隠 (佐賀)	三分五二秒七一
四位	筑水 (久留米)	四分一〇秒八〇
五位	玄海 (福岡)	四分二二秒六七

男子+1 (一般) 決勝

一位	蓋世 (長崎)	三分三九秒四九
二位	龍神 (熊本)	三分四〇秒七六
三位	葉隠 (佐賀)	三分五〇秒二〇
四位	天照Ⅱ (宮崎)	三分五四秒七五
五位	流木 (熊本)	四分〇二秒六五
六位	蒼龍 (佐賀)	四分〇四秒五四

男子+1 (対抗) 決勝

一位	雷光 (佐賀)	三分四〇秒七二
二位	阿修羅 (熊本)	三分四二秒二〇
三位	鵬翼 (長崎)	三分四二秒八六
四位	日向Ⅲ (宮崎)	三分五〇秒六三
五位	篠山 (久留米)	四分〇七秒〇六
六位	英駿 (産業医)	四分二二秒七七

九州朝日レガッタ

遠賀漕艇場

男子×1 予選

一位	鈴木 (九州工業大)	四分〇二秒九三
二位	久保田 (唐津ジュニアRC)	四分〇六秒一〇
三位	深堀 (新日鉄住金)	四分一四秒一七
四位	福田 (長崎大学医学部)	四分一六秒三六
五位	渡部 (九州工業大)	四分一七秒九七
六位	宮原 (八幡工業高校)	四分三五秒八六

ナックルフォア 予選

一位	長崎大学医学部・普賢	二分一六秒八一
二位	佐賀大学医学部D	二分一八秒八一
三位	新 菱	二分二二秒四一
四位	久留米大学医学部B	二分二八秒五五
五位	久留米大学医学部C	二分四五秒八三

男子4+ 予選

一位	熊本大学	三分三八秒〇〇
二位	長崎大学医学部・蓋世	三分三九秒四一
三位	松山大学	三分四一秒六七
四位	福岡教育大学	三分四四秒八〇

男子4+ 予選

- 一位 佐賀県選抜
二位 山口大学
三位 長崎大学医学部・鵬翼
四位 宮崎大学医学部・日向Ⅲ
決勝は暴風雨のためすべて中止

三分三〇秒六二

三分三四秒九四

三分四〇秒〇九

三分四六秒九四

●全日本軽量級選手権

戸田漕艇場

男子×1 敗者復活戦

- 一位 別府（今治造船C）
二位 岡垣（東京外国語大学）
三位 中崎（龍谷大学）
四位 福田（長崎大学医学部）

七分四二秒一四

七分四九秒七四

八分〇〇秒三四

八分一〇秒六〇

男子4+ 敗者復活戦

- 一位 東海大学
二位 中央大学
三位 長崎大学医学部
四位 慶應義塾大学

六分四五秒九七

六分五二秒一七

七分〇五秒八二

七分一二秒一四

●県漕

シングルの福田、四位
フォアは蓋世、崎陽、普賢、鵬翼が出場し、
一位RC長崎 二位鵬翼、三位蓋世、四位崎陽

●西日本医科学生総合体育大会

斑蛇口湖

男子×1 予選

- 一位 鶴居（佐賀） 四分〇三秒三九
二位 燕（京都） 四分一〇秒四四
三位 大徳（熊本） 四分一四秒二一
四位 武内（佐賀） 四分一七秒三九
五位 福田（長崎） 四分二九秒六五
六位 滋賀医科大学B（滋賀） 四分三二秒〇二

男子×1 敗者復活戦

- 一位 福田（長崎） 四分一〇秒九六
二位 武内（佐賀） 四分一四秒五四
三位 松風（熊本） 四分二〇秒三三
四位 滋賀医科大学B（滋賀） 棄権

男子×1 決勝

- 一位 飛閃 (京都)
- 二位 鶴居 (佐賀)
- 三位 滋賀医科大学A (滋賀)
- 四位 福田 (長崎)
- 五位 燕 (京都)
- 六位 大徳 (熊本)

- 四分〇五秒六〇
- 四分〇八秒九〇
- 四分〇九秒一七
- 四分一一秒八一
- 四分一三秒六三
- 四分二〇秒六三

男子4+ (新人) 予選

- 一位 ASTERIA (大阪)
- 二位 崎陽 (長崎)
- 三位 筑水 (久留米)
- 四位 希望 (滋賀)
- 五位 激萎沈沈丸 (熊本)

- 三分五一秒一二
- 三分五三秒六四
- 三分五八秒〇〇
- 三分五八秒八八
- 四分〇四秒七七

男子×2 予選

- 一位 爽 (浜松)
- 二位 昂流 (京都)
- 三位 雲龍 (京都)
- 四位 如水 (熊本)
- 五位 レガメ (久留米)
- 六位 Team西原 (長崎)

- 三分五三秒四三
- 三分五四秒〇五
- 三分五九秒八八
- 四分〇六秒九二
- 四分一一秒九八
- 四分二七秒八七

男子4+ (新人) 決勝

- 一位 飛駿 (滋賀)
- 二位 天啓 (岡山)
- 三位 崎陽 (長崎)
- 四位 葉隠 (佐賀)
- 五位 敏としてfinish (京都)
- 六位 ASTERIA (大阪)

- 三分四七秒〇三
- 三分三九秒〇六
- 三分四九秒三六
- 三分五一秒二五
- 三分五三秒一五
- 三分五六秒二四

男子×2 敗者復活戦

- 一位 雲龍 (京都)
- 二位 飛燕 (熊本)
- 三位 Team西原 (長崎)
- 四位 鶴翔 (岡山)

- 三分五四秒一一
- 三分五八秒三一
- 四分二〇秒四六
- 四分四〇秒一八

男子4+ (一般) 予選

- 一位 日向IV (宮崎)
- 二位 蓋世 (長崎)
- 三位 I X I O N (大阪)
- 四位 篠山 (久留米)
- 五位 玄海 (福岡)

- 三分三六秒二〇
- 三分三六秒七七
- 三分四四秒五六
- 三分五五秒一一
- 四分一四秒九八

男子4+ (一般) 準決勝

- 一位 芝蘭 (京都)
- 二位 阿修羅 (熊本)
- 三位 蓋世 (長崎)
- 四位 日向IV (宮崎)
- 五位 龍神 (熊本)
- 六位 I X I O N (大阪)

三分三七秒〇四
三分四〇秒二〇
三分四〇秒七四
三分四四秒三一
三分四四秒四二
三分四七秒二七

男子×1 敗者復活戦

- 一位 安川 (立教大)
- 二位 宮原 (熊本大)
- 三位 松村 (大阪工業大)
- 四位 福田 (長崎大)

七分四六秒一四
七分五六秒一三
八分一四秒七七
棄権

男子4+ (一般) 決勝

- 一位 芝蘭 (京都)
- 二位 瑞 (熊本)
- 三位 阿修羅 (熊本)
- 四位 雷光 (佐賀)
- 五位 暁 (滋賀)
- 六位 蓋世 (長崎)

三分二九秒七一
三分三一秒三四
三分三六秒一〇
三分三六秒七七
三分三七秒二〇
三分四〇秒三九

男子4+ 敗者復活戦

- 一位 富山国際大学
- 二位 鳥取大学
- 三位 長崎大学医学部
- 四位 福島県立医科大学

六分四八秒四二
六分五〇秒八五
七分〇九秒四五
七分一八秒九四

●全日本大学選手権

戸田漕艇場

男子×1 予選

- 一位 鷹澤 (北海道大)
- 二位 福田 (長崎大)
- 三位 壺井 (日本医科大)
- 四位 平 (小樽商科大)
- 五位 大亀 (兵庫大)

八分二六秒六九
八分三八秒八六
八分四六秒九七
八分五五秒一七
九分一七秒四二

平成二十五年度 COX 記

鵬翼クルー記

九山（西原）

オフシーズン明け一発目の試合、鵬翼は三年二人に一年二人のメンバーで挑む。

クルーはS川口3山成2谷保B有賀で一年を間に挟む。一年二人とも身長一八〇cmを超えており、レンジを生かした一本一本の伸びを意識して練習をしていた。

予選

佐賀の強豪、雷光と当たる。まずまずのスタートを切り、佐賀に続いて二位をキープ。ローヤーは落ち着いて漕げていたが、佐賀も決勝を見据えてか、力を温存しているようにみえた。残り二〇〇m地点でスパートを入れ、五秒差の二位でゴール。山成は初レースでもあるのでフオーワードなどのリズムを整調に合わせるよう意識してもらった。途中ブイを叩かせてしまった。そんなに悪いコンディションでもなかったので反省。

決勝

佐賀に加え、熊本の阿修羅も参戦、好スタートとはいえ

ないものの、すぐに立て直して三艇が団子状態となった。落ち着いて漕ぐようコールをかけ、安定したところで強くのコールをかけた。五〇〇m地点では四分の一艇身ほど二位から差をつけた一位になった。この差を縮めないようコールをかけていたが、ラスト三〇〇mで佐賀が上げてきたので、ここから二枚上げのスパートを入れた。熊本もそれに付られてスパート。しかし、それまで落ち着いて漕いでいた佐賀に比べ、所々コールをいれたためか、体力が尽き艇速はあまりあがらなかった。結果、佐賀・三分四〇秒四二、熊本・三分四二秒二〇、長崎・三分四二秒八六となった。後でクルーに聞いたが、コールが多すぎるとスパートと判別しづらいようだ。メリハリのあるコールを考えようと思う。

九朝（西原）

九山での雪辱を晴らすべく練習を重ね、トップスピードにおいては順調に速くなっていた。

そして、遠賀川は例年通り大荒れだった。

予選

練習の段階からずっと遠賀川のラフコンにバランスを崩され、コーチにフィニッシュを合わせる所からはじめるよう言われて安定してきたかなと感じるころには試合が始まっていた。波に揺られて進行方向が定まらず、二番に

チャボしてもらっているうちにクイックスタートが始まり、スタートを失敗した。練習でさえ安定していなかったため、フィニッシュから合わせるコールを入れるもなかなか艇はたたず、レートを上げても艇速は出ない。バチャバチャとしているうちに三位で予選敗退。練習中にもっと早く安定しない原因を説明しなければならなかった。コックスとしての力不足を痛感した。

県漕（西原）

コンディションはやや波あり、遠賀川ほどではない。

予選

新人艇の普賢と二艇レース。練習通り落ち着いて強く、丁寧な漕ぐことを意識しながらゴール。決勝でもこの調子で行きたい。

決勝

長崎RCと蓋世、崎陽とのレース。好スタートをきれたため、一位で飛び出た。この調子で落ち着いていけば勝てるのではないかと思つたが、長崎RCは一本一本の伸びが凄まじく、コールを入れながら粘つたが三〇〇m地点であつという間に抜かれてしまった。三番手の蓋世も粘り強く、差をひらくことはできなくとも、なんとか二位を守つた。その時のタイムは長崎RC・三分五六秒五〇、鵬翼・

四分四秒九六、蓋世・四分七秒六六であつた。

インカレ（磯部）

予選

予選は四の一上がり。二レーンからのスタート。正直、一年生でコックス初試合の自分はこの大学が速いのかも知らなかったもので、とにかくまっすぐ進めることと体重を落とすことを心掛ける。コーチからも、一位になれるとのことだったので、クルー全体、極度の緊張をすることもなくレース当日を迎えられる。暑さのことも考え、エルゴでアップを済ませ、スタート位置につくまでにスプリントを二本ほどしてスタート位置へ。僕自身は、食事制限の甲斐もあり五五kgぎりぎり計量をクリア。漕ぐことのできない自分ができる精一杯の貢献をすることができたと思う。

レースコンディションは、逆流で強風。スタート直後こそ艇はふらつくものの、すぐに安定させ、いつもの通りの漕ぎを心掛けさせる。しかし、スタートから立教にやや抜け出されてしまう。すぐにその差は開き、五〇〇m地点では一・五艇身差ほどついてしまう。他の二校とは大きく差が開いていたが、これ以上、立教との差を広げたくないことからコーチから伝えられたリードされた時の作戦、『レーン変更』を敢行する。これは、逆風が強かったことと戸田漕艇場の特性を踏まえると十分に可能性のある作戦であり、また、隣の一レーンが空いている僕らのクルーに

しかできないことであつた。五〇〇m通過後ついに敢行。次第に立教との差が縮まり始める。しかし、一〇〇〇mを通過するあたりで、審判艇から度重なる注意を受け止む無く二レーンに戻る。もとのレーンに戻る間に立教に離され、結局、差は広がってしまう。懸命のスパートも空しくそのまま二着でゴール。タイム自体も一位からは二〇秒ほど離されてしまう。敗者の言い訳になつてしまうかもしれないが、あのまま一レーンで行けていたらと思うと悔しさがこみ上げてくる。しかし、いじけていても始まらないので、レース後は精一杯の調整と休養をして翌日に臨んだ。

敗復

前日に続き、四の一上がりで二レーンからのスタート。前日の予選のタイムから隣の三レーンの富山国際をマークする。コンディションは昨日と同じく逆流の強風。ただ、昨日の作戦は使えない。しかし、自分たちには更なる秘策があつた。それは、ポジションチェンジだ。バウの有賀さんと二番谷保さんを入れ替え、スト↓バウ↓バウ↓ストの並びに。最後になるかもしれないレースの前に何をやっていいのかと言われてしまうかもしれないが、だからこそ、攻めなければいけない。戸田では自分たちは挑戦者なのだから。実際、予選後も直前も、艇の進みはよくなつていたし、クルーの雰囲気はよかつた。真つ直ぐ強く大きくという基本をそれぞれ胸にスタート位置についた。

スタート直後、マークしていた富山国際にやはり出られてしまう。コンスタントに入り、一度落ち着いてまた前を詰めようとするも、差が縮まるどころか逆に広がってしまう。ひたすら「強く行こう」とコールをかけ続け「差が詰まってきたよ！」などと励まし続ける。しかし富山国際に続き、鳥取大学にも差をつけられてしまう。一〇〇〇mの時点では上位二校とは二艇身差ほどになつていた。これ以上は遅れをとりたくなかつたので、早くもスパートをかけ、二枚あげをひたすら行う。艇速は上がったが、それ以上富山国際と鳥取が速くなる。そのまま三位でのフィニッシュとなつた。

レースを振り返ると、逆流の状態では、フィジカルの差が如実に出てしまうことを目の当たりにさせられた。戸田は、西医体とは全く違うことを身をもって一年生から経験させていただいたことは、非常に貴重なことだつたと思う。戸田で結果を出せるようになると、自然と西医体でも結果がついてくるようになることだろう。当たり前のレベルを数段あげることが、成績への一番の近道になることだと思う。

蓋世クルー記

九山（佐藤）

予選

今回の九山は、フォアは我々蓋世クルーのみのエントリーで、一般部門での参加となった。クルーメンバーは、船尾から、ストロークの児島、三番の池田、二番の水野、バウの新垣、コックスの佐藤。昨年オフシーズンからの固定メンバーであったため、些かのパワー不足は否めないながらも艇の加速は悪くなく、自分としても内心いい結果を期待していた。

三月二十三日、この日の班蛇口湖は天気も良く、穏やかなコンディションであった。一般の予選ということもありさほどの緊張感もなく、漕手はいい感じにリラックスできていたと思うが、実は自分はコックスとしての初レースであったため、内心かなり緊張していた（笑）。しかも今回は借艇で、はじめてのスタンコックス艇であり、最初の公式練習の時はラダーがうまく扱えず、レーン侵害もままならないような状況であった。正直この時は自分のことで頭がいっぱいで、とりあえず艇をまっすぐ進めることが自分の中での目標であった。

予選本番。蓋世は一レーン。並べる相手は二レーンから順に、福岡大学玄海、熊本大学龍神、久留米大学筑水、佐

賀大学葉隠となった。レース前のミーティングでは、とりあえず最後までリラックスして漕ぐことを目標にした。

レース開始。スタート五本。ダッシュ一〇本。心配していたスタートダッシュは、ラダーワークも成功し、一五ストロークで一氣にトップに躍り出た。レートも四〇近くをキープし好調なスタートとなった。さらにロウイング一本、コンスタントのコールをかけたときには二位の龍神と一艇身近く差がついていた。四〇〇m地点で少しレートが落ちてきたため二枚上げのコールを二回入れるも、あまり上がらず。相変わらず龍神とは一艇身差。ここは作戦通りリラックスして漕ぎ切ることが先決と思い、コールを切り替える。七〇〇m過ぎ、龍神が少しペースを落とし始め、差は一・五艇身まで広がった。三位以下の艇は大きく差がつき全く見えない。ここまでくると決勝に備えてスパートを入れずに流すことも一つの手である。クルーを見渡すとさすがに皆きつそうである。しかし決勝のシュミレーションとしてどうしてもラストスパートは入れたかったため、八〇〇m地点で駄目押しのスパートコールをかけた。しかしこれに対しバウの新垣がやめると叫び反抗、クルーに微妙な空気が流れ、自分も戸惑い何も言えなくなってしまう（笑）。結局レートも上がらないまま一位でゴールした。

結果としては、二位と二艇身差をつけてのトップ、ラダーワークも、一度バウサイドがブイを叩いたが何とか自

分のレーンでゴールすることができた。個人的にはいい感じのコックスデビューを飾れたと思う（笑）。

決勝

この日の班蛇口湖も比較的穏やかで、気温も高くレース日和となった。さすがに決勝となるとクルーメンバーにも緊張の色が見られたが、ラダーワークに慣れたこともあって、自分は逆に予選ほどの緊張はなかった。

決勝本番。組み合わせは、一レーンから順に、宮崎大学天照Ⅱ、長崎大学蓋世、佐賀大学蒼龍、熊本大学龍神、佐賀大学葉隠、熊本大学流木となった。ミーティングでは、最後までレンジを切らず大きく漕ぐ、レートを落とさないという作戦（？）で決まった。レース前のスタート練習もばっちり決まり、いい雰囲気が発艇することができた。

スタート五本、少しバウサイドに曲がるも、ラダーでなんとか修正。ダッシュ一〇本、SR四〇キープでミスもなく好調な出だし。この調子でロウイング一〇本。周りをみると三レーンの蒼龍、四レーンの龍神とほぼ同列、その他の艇はすでにかなり差がついている。コンスタントに入り三レーンの蒼龍が少しずつペースダウンし始め、四〇〇m地点では一艇身近く差がついた。この時点で四レーンの龍神との一騎打ちとなる。龍神はペースを落とすことなく、こちら二枚上げなどで応戦するもなかなか差はつかず、まさに鎬を削る競いとなっていた。六〇〇m地点、龍神が

少しペースダウンし、ようやく〇・三艇身ほど前に出ることができた。七〇〇mに差し掛かり、早めのスパートを入れる。あとは漕手の根性を信じるのみである。ラダーを握る手に力が入る。コールも最後はただ頑張れ、としか言えなかった。トップゴールを切った瞬間、全身の力が抜けた。

結果は二位の龍神と一秒差での優勝。一般部門とはいえ、やはり優勝は嬉しい。個人的には初の金メダルであり、本当に嬉しかった。自分にとっては最後の九山であったが、一生記憶に残るような思い出の試合になった。

九州朝日レガッタ（佐藤）

予選

五月二十五日。今年の九州朝日レガッタも、例年通りラフコンディションで悪名高い遠賀川での開催であった。蓋世クルーは、四月から故障で休養中の水野に変わり尾崎をメンバーに迎え、ストローク児島、三番池田、二番尾崎、バウ新垣、コックス佐藤というシート編成となった。クルー変更からまだ日が浅く、練習での完成度、艇の進みはまだまだといった感じで、クルーの意識としても今回は力試しのレースと割り切った感じが否めなかった。

予選当日。予想通りのラフコンディションである。しかしこのくらいは許容範囲である。この時期は子々川も概ね荒れ模様で、ラフコン慣れしている我々としては、むしろ

有利だったかもしれない。問題はそのことよりも艇のことである。遠賀川の艇庫にある借艇用の艇は、DELTA製の古い木造の艇で、リギングが非常に難しく、さらに老朽化で至る所に故障が発生するという最悪の艇なのだ。今回も案の定リギング中や乗艇中に何度かトラブルが発生し、なかなかレースに集中できない状態であった。

そんな中で始まった予選レース。三レーンから順に、熊本大学、福岡教育大学、長崎大学蓋世、松山大学。四艇レースの二着上がりなので多少気は楽であったが、並べる相手の実力が未知数なので不安でもある。ラフコンの上に出艇中の艇が多く、まともにアップ練習もできないままレースが始まった。予想通りのクイックスタートである。スタートダッシュ直後、ストロークサイドのミスオールで艇が大きくバウサイドに曲がった。必死でラダーを全切りし、何とか方向修正するも、二五〇m地点で既に三レーンの熊本大学に半艇身ほど出られてしまう。六レーンの松山大学も〇・二艇身ほど前に出ている。何度かコールを入れるも艇速は伸びず、四〇〇m通過時には熊本大学に一艇身近く差をつけられていた。レートは三六と低くはなかったが、何とか挽回したい一心で二枚上げコールをかけると、意外にもピッチが上がり艇速が少し伸びた。ただラフコンのせいもあり艇のバランスが悪く漕ぎにくそうである。漕手の顔を見ると既に疲労の色が見える。しかしここは何とかして艇速を維持するべく心を鬼にしてコールをかけまく

る。そして五〇〇m通過しペースダウンし始めていた松山大学を徐々に差し始めると、漕手にも希望の光が見えたのか、落ちかけていた艇速が再び伸び始め、六五〇mで遂に松山大学を追い抜き二位に登りつめた。七〇〇m地点。一位の熊本大学まであと一艇身、三位の松山大学もすぐ後ろを追ってきている。最後のスパートをかけると、レートが一気に上がり、漕手も気合いを見せた。ラスト一〇〇m、怒涛のSR四〇で駆け抜ける。熊本大学との差は依然縮まらない。そしてラスト三本、ゴール目前、とここまで来て不測の事態が起こった。

一步先にトップゴールを切ったはずの熊本大学クルーが漕ぐのをやめないのである。不審に思いながらも蓋世もゴールを切ったが彼らはまだ必死に漕ぎ続けている。ここで最悪の事態が頭をよぎった。見ると一〇〇mほど先に大きなブイがある。もしや、ゴール地点を間違えていたのでは…。一瞬頭が真っ白になったが、とっさに一〇ストローク追加のコールをかけた。一〇本漕いだがブイはまだ遠い。申し訳ないと思いながらもさらに五本追加のコールをかけると、さすがに漕手から怒声があがった。そして何とか二位で漕ぎ終えたと同時に、コックスへの非難の嵐である。まあ漕手の立場で考えれば当然だろう（汗）。しかし、実際にはゴール地点は間違えておらず、熊本大学が勘違いをしていただけということが後に判明し、無事和解となった（笑）。そんなこんなでハプニングはあったもの

の、無事に予選突破することができた。しかしあの時は焦ったなあ…。

決勝

五月二十六日。この日は朝から風が非常に強く、水面もひどく荒れていたため、決勝のレースは中止になってしまった。結局、蓋世は予選のタイム順で総合四位という結果に終わった。予選のリベンジをかけて前日から何度もレースのシミュレーションをしていただけに、非常に残念であった。

県漕（佐藤）

予選

六月二日、形上湾にて県民体育大会（県漕）が行われた。国体予選も兼ねた試合で、出漕クルーは我々長崎大学医学部からの三クルー（鵬翼、蓋世、崎陽）と、RC長崎の四クルーのみであった。蓋世クルーは九朝の時と同じクルーメンバーでの出場…となるはずだった。が、しかし。

例年のごとく、前日に子々川から蹴り出して形上まで艇を運んだのだが、形上到着まであと二、三kmというところでバウの新垣が腰を痛めリタイア。新垣はしばらく休養することになり、急遽、シングルスカルで出場していた福田が代わりにバウを漕ぐことになった。

当日のクルーチェンジで当然練習もできず、予選は四艇

中の四位上がりという出来レース（？）であったため、予選はとりあえず四人で合わせる練習として、とりあえず低く中レートで一〇〇〇m漕いでみようということになった。レース本番、SR二八前後でスタートし、同じペースで一〇〇〇mを淡々と漕ぎゴール。結果は三位であったが、練習ということとで全く緊張感なく非常にリラックスできていたためか、意外にも息がぴったり合っており艇速の伸びも良く、決勝に期待がかかるレースとなった。

決勝

同日、午後から予選とおなじ組み合わせでの決勝レースとなった。時間もなかったためパドル練習は全くできず、完全にぶっつけ本番のレースであった。ただ、自分としては予選の時のような漕ぎでレースレートを出せば勝てるという確信に近いものを感じていた。レース本番。スタート五本は綺麗に決まり、続くダッシュ一〇本までRC長崎、鵬翼とほぼ互角。期待した通りのいいスタートを切れたが、コンスタントに入りRCが徐々にリードし始める。

SR三六。三〇〇m地点でRC長崎は一艇身リード。鵬翼は依然として互角。やはりレースレートとなると予選の時よりも少し力が入っている感が否めず、なかなか艇速が伸びない。五〇〇m通過し、漕手に少しバテが出始め、鵬翼に若干リードを許してしまう。相手が鵬翼クルーというだけに自分も負けたくないというライバル心に火がつき、二

枚上げで応戦。一瞬スピードが上がり追いついたが、無理にレートをあげたせいか少し調子を崩してしまい、再び少し出られてしまう。七〇〇m通過、トップのRC長崎とは三艇身差、二位の鵬翼とは〇・五艇身差。巻き返しをかけてスパートを入れるが、思ったほどレートは上がらず、結局鵬翼にあと一步追いつくことができず三着でゴール。途中まで互角だっただけに悔しい結果になったが、急なクルーチェンジにもかかわらず息を合わせて善戦してくれたクルーメンバーのポテンシャルの高さを実感したレースであった。

西日本医科学生体育大会（佐藤） 予選

二〇一三年八月九日。今年の西医体は佐賀大学の主管による開催で、熊本・班蛇口湖で行われた。インカレに出場しない自分にとっては引退試合でもあり、クルー一丸となってこの大会のために筆舌に尽くし難い努力をしてきた。コックスとしても、シーズン前六三kgあった体重を五五kgまで何とか減量し、万全の状態で大大会に臨むことができた。

今回は、一般付きフォアは我々蓋世クルーのみの出場で、蓋世が事実上の対校クルーとなった。クルーメンバーは、ストロークの池田、三番の児島、二番の尾崎、バウの新垣、コックスの佐藤。予選の組み合わせは、二レー

ンから順に、久留米大学篠山、長崎大学蓋世、大阪大学IXION、宮崎大学日向IV、福岡大学玄海で、準決勝へは五艇中の二艇上がりとなっていた。マークは大阪大学の対校艇IXIONで、失礼ながらその他のクルーにはあまり注目していなかった。

この日の班蛇口は三五度近い猛暑であった。なるべく漕手の体力を消耗しないように、蹴り出しの時間を少し遅くしたのだが、練習レーンが混雑していたこともありアップがあまり十分でないままレース開始となった。スタートダッシュではレートが上がりきらなかったため他の艇に差をつけられず、一〇〇m地点では団子状態。二〇〇m付近でコンスタントに移行しすぐに二枚上げを入れる。このとき右方を見るとIXIONと日向IVが並んでいる。何とか序盤で差を付けたくて予定よりコールを早めに入れたのが功を奏したのか、三〇〇m辺りから隣のIXIONを徐々にリードし始めた。漕手からいいぞと声があがる。しかし、これはいけると思ったのも束の間、あまりマークしていなかった五レーンの日向IVがこちらのペースについてきているのが見える。五〇〇m地点、中盤であまりペースを上げすぎるのが怖かったためしばらく様子を見ることにしたが、日向IVはここからさらにペースを上げ、〇・三艇身ほどリードを許してしまった。漕手にも焦りがでたのか、漕ぎが雑になって艇速が伸びない。七〇〇mでスパートを投入挽回を図るも、レートアップでさらに空回りし差を縮

められないまま二位でゴール。一位の日向IVとは半艇身差足らずで、口惜しさの残る予選となった。

準決勝

二日目。決勝進出をかけたレースということでプレッシャーは相当なもので、行きの車内でもクルーの雰囲気は非常に緊迫していた。自分としてもこれまでで一番プレッシャーを感じたレースであり、対校クルーという立場の重みを実感させられた。組み合わせは、一レーンから順に、熊本大学龍神、熊本大学阿修羅、宮崎大学日向IV、京都大学芝蘭、長崎大学蓋世、大阪大学IXION。六艇中三艇上がりである。阿修羅、芝蘭という去年と一昨年の優勝クルー、そして前日の予選で僅差で負けた日向IVもあり、準決勝とはいえないかなりの激戦になることが予想された。ミーティングでは、前日の反省を生かし、スタートでもっと全速を出すことを目標にした。レース前のアップ練習でも念入りにスタート練習を行い本番に備えた。レース本番。スタート五本、SR四〇、息も合っている。ダッシュユー〇本、レートも落ちず、順調な出だしだ。周りを見るがまだどの艇にも出られていない。二〇〇m通過、龍神とIXIONはすでに少し後ろに見える。ここで四レーンの芝蘭が少しずつ前に出始めた。二五〇m付近でコンスタントに入るがSR三八というハイピッチでこちらも応戦。しかし焦りは禁物だ。三〇〇mを過ぎふと見ると日向IVが少

し遅れをとっている。二レーンの阿修羅は真横に見える。現在阿修羅と二位争いであることを伝えると、一気に漕手の士気が高まり雄叫びがあがった。ここから阿修羅との死闘が幕開けする。五〇〇m地点、四位の日向IVに一艇身近く差を付けるが、阿修羅は相変わらず同列。レート計はSR三七を示しており、これ以上のペースアップは不可能、どちらが先にバテるかが勝負の決め手となった。六〇〇m通過、トップの芝蘭は一艇身差、阿修羅は依然として同列。さすがにどのクルーも漕ぎが小さくなり艇速も落ちかけているが、何とかリラックスして大きく漕ぐように必死でコールをかけた。七〇〇m通過、いよいよラストスパートだ。漕手も雄叫びをあげ気合を見せるが、レートは上がらず艇速は伸びない。阿修羅を見ると少し前に出られてしまったように見えたが、漕手には伝えず、強く大きくのコールをかけた。すでに決勝進出は目前だ。ラスト一〇〇m、最後の力を振り絞ったのか急にレートが上がりペースアップしたが、阿修羅を抜き去ることはできずほぼ同着でゴール。結果は、二位阿修羅と〇・三秒差での三位。決勝の切符を手にした喜びと最後まで阿修羅を差せなかった悔しさが混同しクルーには微妙な空気が流れたが、自分としては何とか決勝まで辿り着けたことへの安堵感でいっぱいであった。

決勝

いよいよこの日がやってきた。八月十一日、班蛇口は涼しいくらいの曇り空で、水面はベタコンと、この上ないコンディションでの決勝レースとなった。自分にとっては現役最後のレースであるが、意外と緊張はなかった。ここまできたらあとは全てを出し切るだけ。自分はクルーを信頼していたので、もう他に何も言う事はなかった。また、この日は引退した先輩方やOBの先生も応援に駆けつけてくんだり、蹴り出しの時も盛大に送り出していただいて、少し胸が熱くなった。決勝の組み合わせは、一レーンから、浜松医大端、熊本大学阿修羅、佐賀大学雷光、滋賀医科大学曉、長崎大学蓋世、京都大学芝蘭。前日の準決勝では芝蘭に四秒差で負けているが、ベストを出せばあと五秒は縮められるという確信があった。アップは昨日までより少し念入りに行う。スタート練習も今までにないほどぼつちり決まり、いい雰囲気になったところでレースの呼び込みがかかった。蓋世は五レーンである。スタート位置に並ぶと、一〇〇〇m先のゴール地点が見える。この一〇〇〇mで全てが終わるのだと思うと少し寂しいような気持ちになった。漕手の顔は見えないが、背中越しに気配が伝わってくる。急にこれまでの四年間のボート部の思い出が走馬灯のように脳裏に浮かび感慨に耽っていたが、アテンション、の声で我に帰った。ゴー、の合図とともに旗が下ろされる。レースが始まった。スタート五本、ぼつちり決ま

る。練習通りだ。しかし、その後のダッシュ、ここで早くも六レーンの芝蘭がリードを始める。やはり彼らは速かった。焦りからか、レートは高いが、少し息が合わなくなりペースダウン。もう一度、落ち着いて、整調に合わせてとコールをかけるが、今度はレートが落ちてしまう。結局、三〇〇mで何とかペースを取り戻すまでに、最下位になってしまった。とは言え、一位の艇とまだ一艇身差もついていない。まだ差せる、いける、と漕手を励まし続けたが、オーバーペースのため既にエネルギー切れか、五〇〇mあたりからまたペースを落としてしまう。このときトップの芝蘭とは二艇身差、五位の阿修羅とは一艇身差であった。さらに少しずつ差は拡がっていく。しかしまだ諦めるわけにはいかない。必死に漕手を鼓舞し続けるが、どうしても艇速は上がらない。コールはもう絶叫のようになっていた。あきらめるな、全力を出し切れ……。はつきり言って、後半のレース展開は、ほとんど覚えていない。がむしゃらに叫び続け、気づいた時には、ゴールラインを切っていた。結果は、一位の芝蘭に一〇秒差をつけられての六位。ゴールした後、皆しばらく放心で声が出なかった。漕手の悔しさは察するに余りあるが、悔しいのは自分も同じだった。しかし、全力で戦ったことは確かであり、それで勝てなかったのだからそれは自分も含め実力不足だったということを確認ざるを得ない。今シーズンはコックスとして蓋世クルーを率いてきたが、クルーの皆を西医体優勝に導く

ことができず申し訳ない思いであった。が、試合後に後輩たちが、「佐藤さんがコックスでよかった」という旨のことを言ってくれて、胸をすくわれたような気がした。あとで隠れてちよつとだけ泣いた。最後に、蓋世クルーの皆にはこんな不甲斐ないコックスについてきてくれたことに感謝の気持ちを伝えたいと思う。本当にありがとう。楽しいシーズンでした。この悔しさをバネに、また来シーズンに向けて切磋琢磨してくれることを願います。

崎陽クルー記

九朝（水野）

ナックル艇五〇〇m

水野、上瀧、下永、磯部、二宮

例年通り風が強く、漕ぐとナックル艇でも中に水が入ってくるほど荒れていた。

今年からDELTA JAPAN製の新艇、オールがconceptとなつたため、故障の心配はなさそうだ。自分が新人の時、シートが外れて、バウに怒鳴られたことを思い出す。あれからもう二年も経つたことをしみじみと感じた。

荒れていたため、若干遅れ気味にスタート地点に到着。2minutesの放送の後、クイックスタート。ここでアクシデント。ミドルペアが全く漕いでいなかった。一年生はク

イックスタートを知らなかったのだ。案の定スタート直後、他の艇に頭一つ出られる。その後、長崎も徐々にスピードに乗り、すぐに差が詰まり一〇〇m地点では一位となっていた。ゴール地点では左右に艇を見ることがなく、レースを終えた。

準決勝

昨日よりも天候が悪く、船尾をステッキボートの横につけての発艇。

前日の予選のタイムでは、準決勝の組みで三位。新日鉄住金とは圧倒的差があつたが、隣の佐賀大学Aにさえ勝てば、二位通過で決勝に上がれる。スタートとラダーワークを間違わなければ、決勝に行ける可能性があると思い、まっすぐ艇を進めることを意識した。

スタートは前日とは違い、他の艇に遅れることはなかったが、新日鉄住吉は一位を独走。二位の佐賀とは半艇身差がつくかつかないか。ラスト二〇〇mスパートを入れ、差が詰まりかけたものの、佐賀もそれに気づきコールをかけた。佐賀は元Aクルーの引退した選手が四人乗っていたため、結果的には五〇〇m地点で水をあけられてゴール。地力の差が出てしまった。

県漕（水野）

水野、粕谷、下永、磯部、二宮

一年生にとって初めての1000m。予選、隣にはRC長崎、その向こうには蓋世。崎陽はフルレンジスタートのため、スタート直後に他の二艇は視界から消えた。県漕の会場は、ストローク側に流れがあるため、意識していないと徐々に真ん中からずれていく。しばしばブイにオールが当たりそうになる。まだ試合経験の浅い未熟なコックスには、なかなか難しい。コールをかけるも上手く艇速は上がらず、試合状況も的確に伝えられず……。ただの肉でしかなかった。要反省。決勝、午前のタイムで本日二回目の1000m。西医体でも一日に二レースあることもあるので、いい練習だ。予選の反省を踏まえ、概ねまっすぐ艇は進んだ。まだまだ、艇としての速度も遅く、体力もないのであと二ヶ月練習に力を入れていきたい。

西医体（水野）

水野、二宮、下永、徳永、白石

諸々の都合上、新人艇は一艇の一年生三人のクルー。県漕からの二ヶ月、艇速を第一に大きく長くを意識。最も艇速がでて落ち着いて漕げる二八がレースレートとなった。八月の初旬、鵬翼、蓋世、ダブルと三分onで並べた。この頃スタ練で試行錯誤してみたがどうも落ち着かず、結局フルレンジスタートで西医体に挑むこととなっていた。や

はりスタートでは少し離されたが、そこまで一本一本で離される様子はなく、rate 28 1:47/500mを見ることができ、準決勝までは難なく行けるだろうと感じた。

予選

春の九山開催時とは違い、ほぼ無風。流れもそこまでなく、コンディションは比較的良好。真夏ということもあって、レース前の練習も低レートで感触を確かめ、スタート一〇本を三、四回と軽めのアップ。前のレースが終わり、ステッキボードに船尾をつける。船首がストロークサイド側に流される。2minutesの合図がされ、一レーンからチーム名が読み上げられ、チャボを止めオールメンスタート用意。しかし、思ったより読み上げが長く、少し斜めにスタート。ラダーではすぐには方向修正できず、スタート三本目で二番のオールがブイに少し触れる。その後、慌てることなく艇速が上がり、中盤でもそこまで目立って艇速が落ちることなく無難に二位でゴール。スタート失敗が悔やまれる。

準決勝

予選での失敗を反省し、発艇直前までチャボをしてもらうことにした。今度は上手くスタートし、まっすぐ艇を進めることができた。しかし、フルレンジスタートということもあり、少し一位の岡山に出られる。スタート時の差の

ま、岡山・長崎が先頭をいき、他の艇は徐々に後方に下がっていく。ラスト七〇〇mでコールをかけるも艇に反応を感じられず、そのままフィニッシュ。後で聞くと二番だけコールが聞こえなかったそうだ。疲れて聞こえなくなっていたか、コックスの滑舌のせいかな。

決勝

スタート位置に到着、三番の顔が険しいので緊張してないかと声をかけると、反応はするが顔は険しいままだった。アップでは硬い漕ぎをしていなかったで、集中しているだけのようだ。定刻通りレースが始まった。スタート二本ほどこで三レーンの滋賀、四レーンの大阪に半艇身差ほどつけられ、長崎は下位三艇と団子状態でレースが始まった。三本目以降、長崎もスピードに乗り始め、スタート時の差が広がらなくなり、そのまま三〇〇m地点までトップと約半艇身の状態で進んでいく。三〇〇〜四〇〇m地点、ここで一位の滋賀以外の艇速が明らかに落ち始め、順位の変動が生じた。長崎はスタート時の艇速を維持したまま、二位の大阪を抜き去る。七〇〇m地点、スパートを入れるも上がらず、一位と約一艇身差。八〇〇〜九〇〇m地点、少し艇が揺れ始め、ストサイ側に流され始める。明らかに速度が落ちた。一レーンの岡山が追い上げてくる音が聞こえる。ゴール付近、岡山との差がどんどん縮まり、ゴールで刺される。一位との差は練習量の差、二位との差はス

パートやコールのミス。もう少し最後まで安心して漕がせられたら、メダルの色も違っていたかもしれない。コックスながらも悔しかった。

ここ二年は新人艇の成績がよく、去年今年と三位入賞である。新人部門でいい成績を残す優秀な世代がトップクルーでも活躍しており、西医体優勝も近づいていると思う。来年こそ、西医体トップで漕ぎ抜きたい。忙しい中朝五時からの練習に来てくださった先輩方、ありがとうございました。

普賢クルー記

九朝（鴨打）

（S 竹田、3 白石、2 徳永、B 西原しょうじ）

一年生にとって初めての試合。子々川でもまだゆつくりノンワークでペア漕ぎをし、ハNZ・ボディ・スライドの確認をやってみたほどの段階であった。ハイレートはもちろん、四人で漕ぐことすら、うまくいかなかった。とりあえずは、今やれるだけのことはやろうと試合に臨んだ。

予選

作戦は低レートでスタートし、五本ほど刻んで一気にハイレートでいこうというものだった。普段の練習から、艇

が大きく曲がることが予想できた。ラダーで制御できない場合は、整調の竹田に調整してくれるようお願いしておいた。

毎年のことながら、遠賀川は今年も風が強く、白波だらけの大荒れであった。艇着けも非常に難しく、ステイクボードに着けたときも、向きを正すのが大変で、ずっとチャボリをしていなければならなかった。流れが強いときにはよくあることだが、このときもスタートのコールの「アテンション…」のときに激しく曲がってしまった。あまりの曲がり方に、一瞬、頭が真っ白になりかけるが、ラダーをすぐさま切り、竹田に一気に曲げてもらった。進路を自分達のレーンに戻している最中に、佐賀大と久留米大に先に出られてしまった。差は一艇身ほどであり、他の艇もバタバタしていたのを確認し、必死に「落착着いて、大きく、強く」と呼びかけた。自分たちもバタバタしていて、レンジも短かったが、不思議といつも以上に力強く、艇を進めることができた。疲れのためか途中艇速が落ちたが、竹田の雄叫びに一年生たちは鞭打たれ、五〇〇mという距離であったが、じわじわと差をつめ、最後には差し切り、無事一位でゴールすることができた。

準決勝

予選でのレース内容を反省し、「途中で艇速を落とさないように」を課題に臨んだ。この課題を克服できれば、予

選以上のタイムでゴールできるはずだと考えた。コンディションは予選と同様に非常に荒れたものだった。試合前のアップでは、予選のときに一度同じことをしたためかスムーズに行うことができた。そのためかテンパることなく、みんな落착着いて試合に集中することができた。スタートもどうなることやらと思っていたが、うまい具合に真っ直ぐ進めることができた。整調の竹田に引っ張られ、五本で一気にハイレートに上げることができた。準決勝ということだけあって、スタートで一位になることはできなかったが、一位との差は半艇身もない、二、三位といった位置だった。レンジも大きく、艇速は予選以上に出ており、抜群の手応えだったので、ただただ「落착着いて、大きく」と呼びかけ、ここぞというタイミグで「大きく、強く、五本いこう」のコールでさらに艇速を上げることができた。このままいけば差せるかもしれないと、みんなを感じ始めていた。しかし、事件は起きた。「ガタンッ」という音とともに、急に艇が九〇度曲がってしまった。一瞬何が起きたのかわからなかったが、冷静になり見てみると、白石が見事にシートから落ちてしまっていた。すぐに座り直し、艇を再び進め始めるも他の艇との差は大きく開いてしまっていた。必死にそのあとを追うも、結局五位でのゴールだった。ゴール後、白石は「やってしまった」的な表情で落ち込んでいた（九朝でのシートのトラブルはよくあることだから仕方ないよ！）。徳永も今迄にない疲れ

ようで、もうこれ以上漕げないという状態だった。九朝はここで敗退になってしまったが、一年生たちにとって、初めての試合でとても印象に残る試合であったのではないかなと思う。いろいろあったが、試合を経験したことで、西医体に向けてこれからいいスタートがきれそうだった。

県漕（鴨打）

（S 竹田、3 白石、2 徳永、B 西原しようじ）

九朝が終わり、すぐに県漕がやってきた。距離は一気に伸び、一〇〇〇m。九朝が終わってから、フィニッシュを伸ばす練習をしてきたので、フィニッシュを意識していこうと、試合に臨んだ。

予選

試合は鵬翼との二艇レース。一上がりであったが、敗退クルーのうち速い方が決勝に行けるということだったのだ、実質上、一つ前のレースにでた崎陽との勝負であった。直前にスタ練を少ししたので、さっそく試合でもやってみることに。スタートは練習のとき以上に上手くいったものの、案の定、隣のレーンの鵬翼は一気に先に行ってしまった。それに慌てて自分たちの漕ぎができなくなっちは元も子もないので、ひたすら冷静に大きくフィニッシュを伸ばしていった。レートも九朝のときよりも高く設定し、手数をかせごうとした。初めての一〇〇〇mレースという

こともあり、途中バテがみえたが、崩れたら四人でフィニッシュを合わせていくことで、なんとか立て直しゴールすることが出来た。しかし、タイムは崎陽に負けており、残念ながらここで敗退となってしまった。崎陽の横で互いに艇を並べてレースをすることが出来たら、また違った結果だったかもしれないし、西医体に向けもっと良い経験になったのと思う。

ダブルスカル記

九山（二宮、尾崎）

予選（オープンレース）

予選は一レーンから順に熊本大学二艇と長崎大学、宮崎大学の四艇レースで三上がりだったが、宮崎大学がオープン参加だったため、決勝進出は確定していた。艇は斑蛇口湖で借艇した年期的に入った桑野製。

練習時からバウサイドの方に艇が曲がりやすく、ラダーもないため上手く艇をまっすぐ進めることができず、苦戦していた。試合では、スタートで切れ込み完全に艇が止まったため四位から追い上げる展開となった。一日二レースで決勝進出は確定していたため、リラックスして漕いでいたが、四レーンの宮大と接戦だったため、六〇〇mからスパートを入れる。二位の熊大まで二秒弱というところで

ゴール。三着で四分〇三秒九七、一、二着は熊大、四着は宮大。

決勝

決勝は予選二組からの六艇レースだった。一レーンから順に宮熊佐熊長宮（二艇の宮大の艇は予選の艇とは違う艇である）、長大は五レーン。予選のような失敗をしないため、スタートはリラックスしてレートは低めに大きく強く行くことにした。スタート時の順位はたしか佐大が飛び出し、次に熊大の二艇、その後に長大と宮大の二艇が並んでいたように思う。

スタートから徐々に艇が六レーンのほうに曲がり、一時は完全に六レーンに入ったりもしたが、六レーンの宮大よりは速かったことと、宮大も七レーンに曲がっていったため、試合は続行された。

中盤は一位の佐大との差はさらに開き、熊大二艇と長大による二、三位争いとなった。六〇〇m地点で、バウサイドを強く漕ぐだけでは、艇の向きを修正できないほど曲がったため、バウサイドのみ漕いで艇の向きを修正し、スタートを開始。徐々に追い上げ、最後に追い抜き、一秒弱の差で、二着でゴールした。

ダブルスカルでの練習を始めてから三月ほどであり、スカルにあまり慣れてなかったということもあり、満足に漕

ぐことはできなかったが、それでも、決勝でのスタートはともよく頑張ったと思う。九山後は、故障者がたため、クルーを解散し、蓋世クルーと新人クルーに分かれてしまったが、ダブルで培われたバランスやレース運びなどは、その後の試合で十分役立ったと思う。

シングル記

九山（福田）

シングルレース目

スタート漕ぎ出しは、多少オールが水中で引っかかってしまったものの、想定していた通りのスピードは出すことができた。

そのままレート四〇程の値をキープしながら他の艇の様子を伺うと、一レーンの艇はスタートの段階から既に前に出て見えず、実質二レーン及び五レーンの熊本大学との戦いとなっていた。

二レーンに対して艇のスピード的には自艇はひけをとらず、五〇〇m地点までは〇・二艇身ほどこちらが抜いていたが、五〇〇m地点に差し掛かった時、ストサイドのオールが切れ込み、低速が激しく落ちた。〇・一艇身ほどのリードを許したが、レートを上げることで抜き返すことに成功した。

このままのリードでゴールできると思ったものの、七五〇m地点でさらにストロークサイドが切れ込み、完全にぬかれ、レートを六枚ほどあげたものの抜き切れずに三位に甘んじてしまった。

ミスがなければ巻き返せるレースだけあり、非常に悔いの残る結果であった。

シングル二レース目

スタートの漕ぎ出しは練習通り落ち着いて出ることができ、スピードを維持して進むことができた。

レートはスタート直後四二ほど、コンスタントでは三六程度を維持していたように感じたが、ストロークコーチの不良で正確な値を把握することはできなかった。

中盤までは順調に先のレースで遅れをとった熊本大学にリードをとっていたが、五〇〇m付近で再び軽く切れ込み低速が落ち、一旦熊本大学に抜かされ、視界から消えた。

しかし並べた感覚では自分のスピードの方が基本的には早いと判断し、多少のレートの上昇はおこなったものの、あくまで切り込みの防止やブイを叩くなどの失速にのみ気を使い、残りの五〇〇mを漕ぐことに専念した。

六五〇m付近で逆転することに成功し、その後は特に目立ったミスもなく差を広げ、先程の三位から二位へと順位をあげることができた。

全日本軽量級選手権（福田）

五月十七日

アップの段階からスタートダッシュの練習、その後になげるコンスタントの練習を重点的に行っていたが、長崎で重視していた一本一本強く漕ぐことと、スタート時のハイレートの折り合いがうまくつかなかった感がある。事実レース開始後のスタートダッシュでは、コーチに最初の三〇〇mはどっちつかずの中途半端な状態で漕いでいたという指摘を受けた。

しかしながらコンスタントに入った段階からいつもの調子を思い出し、ただひたすら、レース直前にコーチに言われたシンプルに漕ぐという目標を実践した。

その甲斐あってか、開始直後は最下位だった順位が一〇〇〇m付近ではすでに逆転し、何とか五位に上がることができた。

この調子で何とか順位をあげようと、途中何回かレートをあげ、逆転を目論んだが最終的に順位は上がりず五位という結果に終わってしまった。

しかしながら今回のレースは自分が目標とすべき漕ぎをある程度体現できたレースであり、このまま努力を継続して行けば、きつと結果を残せる実力になれると感じた。

五月十八日

前回の反省から、スタート時から強く丁寧に漕ぐことを

意識していたが、他大学三艇に序盤から抜かれ、苦しい展開となった。

五〇〇m程までは他艇が見えるくらいの距離であったが距離を縮めることも難しく、ただひたすら艇が見えないまま、やみくもに漕ぎ続けるままのレースが続ぎ、順位は変わらないままレースは終了し、結局のところ四艇中四位という結果に終わった。

九朝（福田）

予選

非常に荒れていて、シングルスカルには辛い試合であった。

スタート直後からスピードは上がり、全体的に出遅れた形となった。これは自分の欠点であるが、スタートダッシュが甘いと思う。

しかし強く漕ぐことで巻き返しを図り、出遅れていた中から四〇〇m地点で五位と四位の艇を指すことには成功した。

残りの三位以降とは距離がなかなか縮まらず、終盤の方で追い込みをかけてレートを上げはしたが最終的に指しきれずに四位に終わった。

敗者復活戦

横波が非常に強く、レーンをまっすぐに走ることが難し

い試合であった。

相変わらずスタートは出られたが、全クルー序盤は拮抗し大差はなかったが、序盤中盤辺りから差が出はじめた。

前回の反省から四〇〇m地点でレートをあげ勝負をかけた。その結果として三位を指すことに成功したが、レーン侵害の指摘を受け起動を修正した際にバランスが崩れ、切れ込み、抜き返された。

指し返そうと残りの六〇〇mをレート三八で漕いだものの差が縮まらず、結局四位という結果に終わった。

県総（福田）

スタートが甘いのが弱点だったため、今回はスタートを意識し、はじめの一〇本をレート四五で攻めてみた。

スタート時の滑り出しはかなり速く、二位で飛び出すことができたが、三〇〇m地点でスピードが落ち始め、三位、四位と順位が落ち始めた。

その後何とか三度程レートを三九まであげ逆転を図ったが、距離は多少縮まったものの逆転はできなかった。

キヤッチで止まっていたのが敗因らしい。

結果的に四艇中四位だったので不満は残った。

西医体（福田）

予選

出だしにスムーズに漕ぐことができ、この分だと予選は通過できると思ったが三〇〇m程漕いだ地点で激しく切れ込み、二〇秒ほどロスしてしまった。

その後復帰したものの遅れは取り戻せず、六艇中五位という結果だった。

敗復

出だしは全員速度は拮抗し、熊本大学が一步出ていたが、一〇〇mほどで段々スピードが落ちているのが見えていたため、特に焦らず普段通り漕ぎ続けたため三〇〇m地点で逆転し、その後七〇〇mは他艇に一艇身の差をつけて一位でゴールすることができた。

前回のレースが若干心の傷となっていたものの、冷静に丁寧に漕ぎ続けることができた。

決勝

出だしから中盤まで全員同程度の艇速で進み、順位がわからない混戦状態で二、三位の順位でついていた。

七〇〇mの地点でスパートをかけ、レート四〇ほどで漕ぎ続けたが漕ぎの荒さが目立ち、艇が多少曲がってしまったため審判艇から注意を受け、艇の方向を正していた隙に四位まで落ちてしまった。

終盤出せる限りの力を出したことは、自分の中でも評価に値すると思うが、その分技術面の甘さを痛感したレースであった。

インカレ（福田）

予選

出だしからミスの無いよう漕ぐことに集中し、スピードも艇の曲がりもそれほど問題なく漕ぐことができ、他艇との差を詰めることができ、序盤一〇〇〇mで四位だったが、後半で二位まで詰めることができた。

しかし北海道大学の艇が自分より常に一艇身以上の差をつけていたため、後半レート四〇程で逆転を狙い、〇・五艇身ほどまで追い詰めたが指しきれずに二位となった。

敗復

レース開始後五〇mでブイにオールをぶつけ沈してしまったため、棄権扱いとなってしまった。

軽量級なしフォア記

全日本軽量級選手権（川口）

谷保、山成にとっては初の戸田、初の二〇〇〇mレース。レベルが高い試合になることは覚悟していたが、GW

が始まってから以来、二人を騙しつつも一モーシヨン二五kmとオンオフメニユー祭りで追い込んで、どれくらい自分たちの力が通用するのかを試す大きな試合だった。

予選

スタート前から初の二〇〇〇mの試合に、後ろのみんなの不安が伝わってくる。また今回はコックスがいないため整調の僕がラダーをきらないといけない。各々緊張しつつもスタートとともに飛び出したが、GWの特訓の成果もあり、なかなかの好スタート。前からこのクルーはスタート後のダッシュ、ロウイングが速く試合でも同じものを出すことができた。しかし五〇〇mあたりから次第にレートが落ち始め、動きもばらつき始める。試合前からスピードを一度落とすとあげれないと散々言っていたものの、結局スタートのスピードが維持できず、三位でフィニッシュ。トップスピードはなかなか早いが大きく崩れてしまうことが敗因。初の二〇〇〇の恐怖はすぎたので翌日の敗者復活にかける。

敗者復活

四の二上がりの試合。昨日の反省を生かしトップスピードを持続することを徹底して試合に臨む。このレースでもスタート、ダッシュ、コンスタントまでの流れは良いものの、やはりばたついてしまう。五〇〇m地点で二位以下の

三艇は横並び。七〇〇m付近で一度勝負に出ようとアクションを起こすが上手く決まらず逆にバランスを崩す結果となり、二位の中央大学に少し離される。ラスト五〇〇m付近よりスパートをかけ四位の慶応義塾大学を大きく離すが、中央には及ばずに三位。

練習時からストロークごとの厳密さがたりていない。蹴り出してから艇をつけるまで、どの場面においても雑さが出ないようにすること、簡単にくずさない、ブレードを擦らない。当たり前の基本的なことをひたすら丁寧にやる必要があると感じた。

試合後の練習からストロークを谷保に変更。四人がお互いの漕ぎを感じ取ることができるように意識する。多くの課題が見つかる試合になった。

部員雑感

雑感

一年 磯部 優作

入部とともに理性を失いました。

雑感

一年 下永晃一郎

僕の名前はこういち row i

好きな言葉は One for Oar, Oar for One i

雑感

一年 白石 健悟

ボート部兼暴徒部一年の白石健悟です。新入部員です、よろしく願います。

ボートはキツイことばかりでなかなか好きにはなれないけど、たまに楽しいと感じることもあり、なんだかんだ

で頑張ってます。もうちょつと上手く漕げるようになりたいと思ってます。

じゃあ、特に書くこともないのでとりあえず一発芸やっときます。

ヘミングウェイ、フライアウェイ、YES ノルウェイ

雑感

一年 徳永 高帆

現在現役の先輩方は九人、新入部員は四人で、先輩方は四〇〇〇〇円養育費を払ってくれています。つまり、四〇〇〇×九＝三六〇〇〇

新入部員は四人なので、三六〇〇〇÷四＝九〇〇〇
朝練が週に六回なので、一月で六×四＝二四
つまり一日に換算すると、九〇〇〇÷二四＝三七五

でも一日に五〇〇〇円で計算されてるらしいです。…あれ？

雑感

一年 山成 康洋

とりあえず二年生になります。ついでに九山優勝、ついでについでに国体です。

雑感

二年 尾崎 諒史

身長一八〇cmの人の適正体重は七〇kgくらいだそうです。

わし、五九kg…

どなたか体重が劇的に増える方法を教えてください。

雑感

二年 佐藤 晋平

引退後はラスベガスで優雅なひとときを過ごしました。

雑感

二年 谷保 康一

三十一歳を迎え、結婚もした今、やるべきことは何なのでしょうか？

ボートです。

それは絶対に違います。

バスケットです。

それも違います。

雑感

二年 二宮 直樹

二〇一三年の西医体では新人付フォアの整調を漕ぎました、二宮です。一年生三人と水野が頑張ってくれたおかげで新人部門の三着になることができましたが、最後のラストパートで競り負けてぎりぎりの三位でした…

最近、ボートを漕いでいる時は比較的楽しく漕げるようになってきましたが、未だに大会で優勝したことはありません。大学以前から運動は全く得意ではありませんが、そろそろ自分の乗ったクルーで優勝したいです。

ただ、まずは学業を第一目標に、楽しく漕ぐを第二目標としてこれからは頑張っていきます。

雑感

三年 新垣 慶人

一年間、必死に漕ぎきりました。あと、一年間がんばります。

雑感

三年 児嶋 知仁

あつという間に三年生になってしまった気がします。そんななか、エルゴをやっている時間は永遠のように感じられます。あと一年ずつとエルゴをしたら永遠のような一年を過ごせるのでしょうか？エルゴが「精神と時の部屋（ドラゴンボール参照）」のように思えてきました。あと一年がんばってスーパースイヤー人になって引退しようと思います。なんだかエルゴのことばかり書いてしまいました。

今シーズンは今までで一番ストイックに過ごそうと思います。今年こそジェイソンスティサムやトムクルーズのような身体を手に入れたいので。

もっとストイックにならなければ…

雑感

三年 西原 聖仁

今年も頑張ります。

雑感

三年 西原 新也

幹部となり、忙しくなってきました。忙しいと思えば思うほど、今まで支えてくれた先輩方への感謝と尊敬の念が尽きることはありません。部を引っ張る立場を自覚しはじめたためか、自分が下級生だったころの先輩方の気持ちもなんとなく想像出来るようになりました。部というのはこんなことを繰り返して、今のOBの先生方がおられると思うと少し親近感が湧きます。

今シーズンはコーチがいけないこともあり、今までの経験を元に手探りでやっていかなければなりません。自分はコックスとして試合に出ることを見据えています。エルゴにも参加し、コックスへの糧としていきます。

基本は自分達の力、そして時々先輩の力を借り、後輩の

頑張りに力をわけてもらおうことでなんとかやっていきたい
と思います。

雑感

三年 水野 弘士

ここにはいろいろな人がいます。自分の太ももに興奮を
覚える者、合コンで女の子の隣で嘔吐する者、胸に異常な
執着を示すもの。自分が一番まともだと信じたい。

雑感

四年 有賀 健治

今シーズンは鳳翼のバウに乗せていただき、一年間イ
ンカレ入賞を目指して頑張ってきました。しかし私は決
してボートのうまい「すごい先輩」にはなれず、Hands
awayを早くする、上体をブラさないなど、四年間で自分
の弱点をきちんと直すことができませんでした。練習メニ
ューをこなして満足していましたが、今回のインカレ結果
はこうした私自身の実力の低さ、上級生としての後輩への
指導力のなさも一因だと感じております。

ボート部は今シーズンから、これまで当たり前のように

頼り切っていたコーチを失い再出発します。これは大きな
決断だと思えますし、多くの壁にぶつかると思います。引
退した私達四年生を中心として、学生コーチなどできる限
りのサポートをしていきたいです。今後もボート部をよろ
しく願います。

雑感

四年 池田 英史

なんとか現役時代の四年間を終えました。この部活で多
くを得、多くを失いました。後悔はしていません、むしろ
感謝しています。

ヘタレな僕を最後まで支えてくれた先輩方、後輩、そし
て同級生に本当に感謝しています。

現役部員の皆さん、新しいボート部を作るのはあなた方
です。保守的にならず、どんどん改革して行ってください。
改革は痛みを伴うといえます。(なるべく痛みは少ない方
が良いのだけど…笑)

雑感

四年 川口 雄史

ここまでの文章を書くのに疲れてあまり書くことがありません。でもこうして振り返るとまたボートが漕ぎたくなります。

この文章をみる未来の僕へ

お酒には気をつけて

責任感を持ちなさい

友達は大切に

この文章を見てにやける自分が浮かびます笑

総括

四年 福田 龍一

長いようで短い現役生活だったと思う。

その中でも特にこの三、四年の幹部学年は密度が濃かった。

競技に対する考え方、部活を引っ張って行く学年に置かれたことで、いままで漫然と過ごしていた部活面での生活

が責任あるものとなり大変であったことは確かである。

しかし、大変である一方で現役最後の年であるから悔いの無いようにしたいと思い、西医体で結果を残せるような年にしたいと、自分なりに考えてあらゆる努力を払った。

自分を徹底的に追い込む環境に置き、シングルスカルに乘せてもらったのは自分のボート人生のなかで大きな転機であったと思う。艇を揺らさない練習や艇の進み方、速度を感覚的に理解する時間がフォアに乗っている時よりも多く取れ、自分の調子のいい時、悪い時の艇の動きの違いがわかり、悪い時にはどのようにして対処すれば良いか、肉体的精神的両方に通じる自己のコントロール方法を模索することが出来るいい時間であったと思う。

また、レース時にも自分一人で艇の速度が決まってしまうため言い訳がきかず、全て自分の責任となつて結果が返ってきてしまうのは辛かったが、今の自分の力量や、試合中どのようなことを考え、他艇とどのように駆け引きをして勝利を勝ち取るか試行錯誤していくのは結果がいい時でも芳しくない時でも楽しく、有意義であったと思う。

しかし、あくまでそれらの努力は単なる努力であり、今年一年の総合的な試合結果は西医体で四位、インカレで予選敗退というあまり芳しくないものであった。

結果が出なければ練習や努力は全て水の泡となり、今年一年の努力は一体なんだったのだろうと引退後若干悩む時間があつたが、何かしらの目標にむかつて自発的に努力す

するという行為は、かつての先輩達やコックス達に半ば引つ張られながら漫然とこなしていた努力に比べて得るものが多く、これから先の人生でも役に立つことばかりだとおもう。

当然のことだがこれらの経験はシングル艇に乗っているから、幹部学年だから経験出来る、というわけではない。たまたま自分がその時期に一念発起しただけなので、是非幹部学年に限らず部活を支える全部員が一人一人考え、目標に向かって努力していける部活になって欲しいと切に願う。

雑感

五年 鴨打 周

部活引退したらたくさん勉強するぞ
そう思っていた時期もありました
でもまだ何もしてません
国試まであと一年ちよつと
勉強しなきゃなあ

雑感

五年 菊田 龍

最近、僕の周りで絶対彼女できないだろって思ってたやつらに彼女ができていて、人って変わるもんなんだなあと痛感しました。笑

雑感

五年 竹田 一博

先日バイト先の飲み会。
目上の方と同じ席になったことによる緊張で多飲し、記憶をなくしてしまった。

次の日の朝、
カバンを見ると
プレデターのフィギュアが入っていた。

雑感

五年 田尻 昌士

今年もいろいろとありましたが、まさか大学病院に入院することになるとは思いませんでした。差し入れもつてお見舞いに来てくれた後輩、同級生、先輩ありがとうございます。ました。頸部リンパ節がガッツリ腫れて、脾腫がでて、AST、ALTがかなりの高値をたたき出して、教科書に載っててもいいぐらいの典型例でした。診断は井1扁桃炎井2伝染性単核球症でした。治りましたけど、恥ずかしかったです。

雑感

六年 大井隆之介

入学して早くも六年の月日が過ぎてしまいました。今思うと、本当にあっという間の学生生活だった。さて、今回特に雑感について書きたいことがなく提出期限も当に過ぎてしまい（本当にごめんなさい）、ここまでできてしまった。考えた結果ここでは部活を引退してから行ってきたことを少しづつ書いていきたいと思う。

・カナダヘオーロラとナイアガラの滝を見に行つた。感動

した。

- ・九朝で準優勝。銀メダル取つた。
- ・中国に初の一人旅。臭かつた。
- ・長崎ベイサイドマラソンに出てみた。きつかった。
- ・初めて彼女できた。わーい。
- ・ポリクリ、クリクラが終わつた。お疲れ様。
- ・マッチング、卒試が終わつた。やったー。
- ・東南アジアヘワンコールワットを見に行つた。でかつた。

・勉強部屋で屋久島行つた。よく歩いた。

まあ、自分に起こったイベントはこんなところでしょうか。語彙力がないためなかなかうまく伝えられないですが、要するに部活を引退してボチボチ楽しんでいきます。けど、もう国試まで八十日も切つたので、これから頑張る予定です。勉強のやる気はないけど、部活で培った気力と意地と我慢できつと乗り切るでしょう。

最後に。ボート部で三年半は苦しいこともありましたがとても充実していて、自分の人生で忘れることのできない一生の宝物となりました。これまで試合のあるたびに励ましのメールや電話をくださったOBの先生方、忙しい中色々とサポートしてくださった先輩方、毎日つらい練習の中ずっと必死についてきてくれた後輩達、そして三年半自分を一番近くで支えてくれ共に頑張ってきた同学年の五

人、本当にたくさんの人たちに支えられここまで来ることが出来ました。今後、まずは医師になれるよう国家試験に無事合格し、仕事しながらでも何か後輩達をサポートできるように頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。そして、本当にありがとうございます。

雑感

六年 粕谷 泰祐

部費の回収率が下げ止まらず、非常に苦しい台所事情であるということは、もはや周知の事実です。

OBの数は毎年増えているはずなのに、回収額が増えないなんておかしいでしょ！

そうは思いましたが、年三〜四万という大金です。それを無償でいただくからには、学生にもできることをと思い、僕は幹部になった年からある活動を始めました。

Facebook上の「長崎大学医学部漕艇部OB」というグループに、レースの動画や写真を大会に行く度にUPし、現役の活動内容を目に見える形でできる限り報告すること。

地味な活動ではありますが、グループに入っている先輩方からは支持されていると、自分ではそう思っています。

最近は現役部員たちのBlog更新も以前より増え、活動報告を重視するようになってきたと思います。しかし、そのBlogも認知度が低い！

そこで、お願ひです。

現行のBlogに加え、Facebook上でも情報発信をしてください。僕が個人的にやっていた活動を、新しく係をつくってでもいいので、さらに徹底して行なってください。

活動報告は地味な活動ですが、必ず効果はあります！僕のように毎回のBlogを楽しみにしているOBもいるのですから。

雑感（最終章）

六年 上瀧 善邦

二〇〇八年二月二十六日、大雨の日だった。

大学入試二次試験の面接日。

全てが終わり基礎棟を出ると、たった一人、疲れた表情と乱れた服装でビラを配っている人がいた。

帰りの電車を待つため、浦上駅のホームのベンチに座り、ポケットに手をつ突つ込むと先ほどもらったビラがあった。

それは入学手続きに関するビラでも、予備校のビラでも、ましてやビラでもなく、「ボート部のビラ」だった。

それが僕のボート部の始まりだった。（ちなみにビラを配っていたのは大橋さん）

今思えば、僕はボート部に入って人に恵まれた。

同級生、先輩、後輩、OBの先生方、皆、面白く、優しく、頼もしかった。

何かに本気で打ち込み、腹をくくって意見をぶつけあったのも人生で初めてだった。

馬鹿もするけど、やるときややるボート部が誇りだったし、大好きだった。

あの時最初にもらったビラがボート部でよかったと思う。

話はかわるが、部活を引退し、時間にも余裕が出てきて、旅をしたり、本を読んだり、自分自身と向き合ったりしながら気づいたことがある。

「人生は、できるだけ軽いほうがいい。」

荷物も情報も心の中も：

軽い方が歩きやすく、転んでも起き上がりやすい。

雑感

六年 丹下 寛也

社会に溶け込む。

雑感

六年 朝野 寛視

二十六歳、そろそろいい歳なんで働きます（国試受かりたい）。

雑感

六年 三瀧 正秀

例に漏れず最後の雑感も〆切間に合わず。歴代の担当者、本当に申し訳ないです。（特に数ヶ月遅れとなつてブチ切れさせた丹下と菊田、最後の方は姿を見かけるたび逃げてました、ごめんなさい）

初めて朝練もなく、大会にも出場しないシーズンでした。その分勉強にも精が出て、成績も一躍上位に：：なりません

でした。地を這つてます。国試やバいです。後輩の皆さん、引退してからでもいいから勉強はコツコツちゃんとやることをおすすめます。本当に。

六年間、思えば本当にいろいろな経験をさせてもらいました。強烈な個性の先輩方に魅かれて（最後は飲み勢いで）入部し、これまた個性的な同期、後輩たちにも囲まれ、幾度となく悩み、時には対立して、悔しさ、歓喜に涙を流し…。

決して楽ではないことの方が多かったけれど、今となつてはどれもいい思い出です。それもこれも本当に仲間に恵まれたからこそ。本当にありがとうございました。

無事三月に桜が咲けば、これからはOBとして会費を滞納することなく、後輩たちの活躍を楽しみに陰ながら応援していこうと思います。

シエルフォア雄図廃艇式

三年 主務 西原 新也

平成二十六年一月十二日

長崎市西彼杵郡時津町獅子川郷の長崎大学臨海研修所に
て初漕ぎに合わせて廃艇式を執り行いました。

長年我が部を支えてくれた雄図を手放すこととなりました
たのは艇の老朽化により乗艇が困難になったためです。今
まで多くのOBの先生方が乗艇されてきた船ですが、安全
面に問題があり、廃艇することとなりました。ご了承下さ
い。

廃艇の際には、艇にかかっている保険を学務に言つて外
してもらい、廃艇の費用も学務に出していただきました。
今回は時津の廃艇業者の西菱環境開発さんに依頼いたしま
した。シエルフォア一艇で八万円ほど。これから先の廃艇
の際に参考にしてもらえたらここに記しておきます。

プログラム

一、開式

進行役による廃艇式開式の宣言。

二、報告

艇使用者が艇の戦績、略歴などを報告し、贈呈者と艇
自身への感謝の辞を述べる。

三、部歌

今までお世話になった雄図に向けて部歌を捧げます。

四、除籍

本艇を長崎大学医学部漕艇部から除籍いたします。

五、艇切断

記念として残すものは切り取ってもらう。

六、閉式

廃艇式閉式の宣言。

戦歴

H 5 西医体 5 位

H 6 西医体優勝

当時のクルー

古賀洋安先生(H 8 卒)

武野正義先生(H 8 卒)

岡真一郎先生(H 9 卒)

岡田和一郎先生(H 9 卒)

谷川治先生(H 11 卒)

H 7 九山 3 位

H 9 九山男子オープン 2 位

H 13 九山男子オープン 2 位

H 14 九山男子オープン 2 位

(艇数も増え、使用される機会が減った模様)

H 20 九山一般男子 5 位

雄図に永久の感謝を

三年 主将 児嶋 知仁

先日、舵手付シエルフォア艇の雄図の廃艇式を行いました。桑野の旧規格艇で艇の老朽化も激しく、乗艇は難しい状態にあったためです。

現役部員でも、雄図に乗ったことのある部員はほとんどいませんでしたが、僕自身三年前の初めての西医体に出場した艇であり、新人戦の決勝まで連れて行ってくれた思い入れのある艇でもあります。先輩からレースに対する姿勢を教えられたのも、仲間が先輩から怒られて泣きながら漕ぐ姿を見たのも、雄図に乗った時でした。雄図に乗って色々なことを教えられ、学びました。

三年前の西医体新人戦の決勝が最後の雄図の公式戦でした。あまり良い結果は残せませんでしたが、長い間、部を支えてきた優勝艇でもある雄図という艇の歴史に少しでも関わることが出来て光栄に思います。今までありがとうございました。

平成 25 年度 長崎大学医学部漕艇部 収支報告書

2012年9月～2013年8月迄

支 出 摘 要	総 額	OB会ご援助	部員自己負担額
ランクアップ松山	121,000	100,000	
四校戦	75,000	23,000	
艇部品（コロ・ストロークコーチ等）	106,577	8,400	
フォアオール購入	200,000	100,000	
熊大交流戦	19,015	0	
モーターボート修理	16,700	16,700	
モーターボート点検	92,500	0	
部活使用車修理	350,000	350,000	
新人戦	252,280	14,000	
九州山口医科学生体育大会	314,037	180,000	
全日本軽量級選手権	343,350	200,000	
九州朝日レガッタ	274,000	50,000	
県漕	33,528	0	
関西選手権エントリー（棄権）	27,500	0	
西医体	594,781	350,000	
インカレ	512,170	400,000	
コーチ契約費	300,000	300,000	
練習時交通費	310,500	0	
新入生勧誘費	718,269	300,000	
モーターボート運用費	95,562	0	
平成24年度部誌発行費	248,850	248,850	
通信費	106,902	106,902	
ボート協会登録費	44,500	44,500	
部活車駐車場	14,500	0	
結婚式準備	48,434	0	
案内はがき、印刷	589	0	
雑費（＊）	47,333	0	
合 計	5,267,877	2,792,352	2,475,525

	平成25年度	平成24年度
OB会費ご援助	2,792,352	2,862,296
部員自己負担額	2,475,525	2,163,064
漕艇部支出総額	5,267,877	5,025,360

長崎大学医学部漕艇部OB会

会 費 請 求 数 （ 会 員 数 ）		会費納入人数	会費納入率
平成21年度	128名	75名	59%
平成22年度	145名	84名	58%
平成23年度	149名	85名	57%
平成24年度	153名	80名	52%
平成25年度	155名	57名	37%

（H26.1.10 時点）

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収をもつて当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日 正)

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
1 長西 靖	731-5125 731-5125	長西耳鼻咽喉科医院：広島県広島市佐伯区五日市駅前町1-11-37 広島県広島市佐伯区五日市駅前町1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839				S46
2 冬野 誠三	847-0844 847-0844	なばたけ冬野クリニツク：佐賀県唐津市菜畑3660-1 佐賀県唐津市菜畑4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	Nabatake@star.saganet.ne.jp fuyuno@matsurinet.co.jp			S48
3 柏本恵一良	593-8326 592-0003	柏本内科クリニツク：大阪府堺市鳳西町1丁-92-2 大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-0588 072-264-8828	kema@violetplala.or.jp			S49
4 峰 雅宣	854-0034 847-0849	菅整形外科病院：諫早市小野町332 長崎市柳谷町4-13	0957-23-2388 095-847-6031				第1内科 S49
5 朝戸 末男	891-9112 891-9112	朝戸医院：鹿児島県大島郡和泊町和泊14 鹿児島県大島郡和泊町和泊16	0997-92-1131 0997-92-2280		sasato@nisiqnet		S50
6 内田 隆寿	859-4825 857-0135	青州会病院：北松浦郡田平町山内免612-4 佐世保市瀬戸口11-30	0950-57-2155				第2外科 S50
7 桜井 一枝	720-0822 721-0952	みつふじ小児科：広島県福山市川口町2-22-11 広島県福山市曙町5丁目24-38	084-953-0307 084-954-4454	mitsufuji@fukuyama.hiroshimamed.or.jp			小児科 S50
8 瀬戸 信二	852-8501 852-8052	井上病院：長崎市宝町6-12 長崎市岩屋町17-2	095-849-7288 095-857-1808	s-seto@nagasaki-u.ac.jp			第3内科 S50
9 早田 篤	850-0031 847-0859	長崎市役所中央保健センター：長崎市桜町6-3 長崎市立岩町77-10	095-829-1153 095-862-5622				小児科 S50
10 田川 泰	852-8520 851-2128	長崎大学医歯薬総合研究科保健学科専攻：長崎市坂本1-7-1 西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-819-7000 095-887-1391	t-yutaka@yoiri-med.com tagawa@netnagasaki-u.ac.jp			第1外科 S50
11 中野 文耕	853-2301	新上五島町立若松診療所：南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3318	メーイルは使わない			第2外科 S50
12 丹羽 正美	851-0401 852-8052	医療法人共生会長崎友愛病院：長崎市玖波町2314番地1 長崎市万屋町6-29-601	095-892-0630 095-883-6395		niwa@netnagasaki-u.ac.jp		第1薬理 S50
13 馬渡 一雄	850-0001	まわたり内科医院：長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101				第3内科 S50
14 石川 治	670-0936 670-0936	石川医院：兵庫県姫路市古二階町135 兵庫県姫路市古二階町12	0792-23-3270 0792-23-1307				岡山大外科 S52
15 川口 昭男	852-8046	長崎市柳谷町14-27	095-847-5529				第1外科 S52
16 田中 精一	193-0832 193-0811	南多摩病院：東京都八王子市散田町3-10-1 東京都八王子市上巻分方町246-1	042-663-0111 042-651-7640		s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp	女子医大消化器センター	S52

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
17 堤 健二	833-0054 830-0047	つつみ脳神経外科クリニック：福岡県筑後市大地蔵敷642-7 福岡県久留米市津福本町1669-19	0942-42-1155 0942-65-8105	k-tutumi@mx2.tkline.jp	脳外科 S52
18 吉良 満夫	852-8008	浜崎外科医院：長崎市曙町3-6	095-861-6034	kira@mx.bcnm.ne.jp	第2外科 S54
19 出口 正巳	530-0001 659-0012	医療法人正祥会カリスクリニック：大阪府大阪市北区梅田2-4-37 西梅田上島ビル5階 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46	06-4797-4000 0797-38-8077		形成外科 S54
20 井上健一郎	850-0045 852-8102	井上病院：長崎市宝町6-12 長崎市坂本1-2-5	095-844-1281 095-846-2218	ken-inoue@shunkaikai.jp	第2内科 S55
21 江口 圭介	857-0962 857-0015	江口内科ステーションクリニック：佐世保市白南風町1-13 JR九州佐世保ビル206号 佐世保市松山町5-38	0956-20-1178 0956-22-2224	dreguchi@hyper.ocn.ne.jp	第3内科 S55
22 成松 元治	811-0119 811-0122	医療法人成松循環器科医院：福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4丁目5-25 福岡県糟屋郡新宮町の宮3丁目4-15	092-962-0022		心臓血管外科 S55
23 水谷 明正	847-0890 850-0963	長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54 長崎市ダイヤランド1-36-19	095-871-1515 095-878-3807	akimac@mono.so-net.ne.jp	第2外科 S55
24 小倉 猛	866-0826 862-0947	熊本労災病院：熊本県八代市竹原町1670 熊本県熊本市東区画図町重富744-13	0965-33-4151 096-379-7592	togura@sky.plala.or.jp	形成外科 S56
25 谷川 宗生	847-0894 851-2127	長崎北病院：西彼杵郡時津町元村郷800番地 西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-886-8700 095-883-4030		第3内科 S56
26 難波 裕幸	850-0921 851-2127	医療法人春秋会 南長崎クリニック：長崎市松が枝町3番20号 西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-827-3606	namba@synyu-kai.or.jp	原研細胞 S56
27 前原 洋二	835-0024 847-0899	森整形外科：福岡県三山市瀬高町大字下庄590 福岡県久留米市津福本町786-6 グランビエマンション津福1001	0944-63-2040 0942-37-5038	intyou-moriseikei@cotton.ocn.or.jp	S56
28 山近 史郎	850-0045 850-0804	井上病院内科・循環器科：長崎市宝町6-12 長崎市彦見町18-4	095-844-1281 095-825-3580	yamachika@shunkaikai.jp shiyama@mx.bcnm.ne.jp	第3内科 S57
29 岡田 代吉	807-0743 807-0846	おかだ外科胃腸クリニック：福岡県北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202 福岡県北九州市八幡西区里中1丁目8-22	093-613-7188 093-613-3732	メールは使わない	S58
30 倉富 彰秀	842-0002 842-0002	医療法人輝秀会くらとみ眼科医院：佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1	0952-52-8841	soarer1956@w4.dion.ne.jp posa@train.ocn.ne.jp	S58
31 末永 俊郎	801-0852 801-0852	末永産婦人科麻酔科：福岡県北九州市門司区港町6-15 福岡県北九州市門司区港町6-15	093-321-2453 093-322-1751	suetoshi@kkjil4u.or.jp	S58
32 中崎 隆行	852-8104 852-8102	長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15 長崎市坂本2-18-15	095-847-1511 095-842-2391	nakazaki@topaz.ocn.ne.jp	第1外科 S58

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
33	永見 耕一	758-0025 永見眼科医院：山口県萩市土原351	0838-22-0720	nagami@haginete.jp	S58
34	永山 雄二	852-8523 長崎大学原爆後障害医療研究所分子医学研究分野：長崎市坂本1丁目12-4 852-8156 長崎市赤迫3-14-1-511	095-819-7173 095-856-5433	nagayama@nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S58
35	松永 伸彦	854-0072 まつなが眼科：諫早市永昌町43-1 854-0086 諫早市堀の内町23-2	0957-25-8866 0957-27-1333	matsub@mocho.ocn.ne.jp	S58
36	小林 誠博	803-0831 小林外科医院：福岡県北九州市小倉北区日明4丁目6-28 805-0016 福岡県北九州市八幡東区高見2丁目10番1-601	093-561-6353 093-651-8786	qq2r9xwn9@vega.ocn.ne.jp	第1外科 S59
37	平野 友久	850-0953 上戸町病院：長崎市上戸町4-2-40 850-0963 長崎市ダイヤランド3-28-6	095-879-0705 095-878-8913	hirano@kenyukai.or.jp	S59
38	糸柳 則昭	850-0842 糸柳プレストクリニツク：長崎市新地町1-5 MMCビル4階 851-2130 西彼杵郡長与町まなび野2-18-2	095-832-7000 095-887-4927	hiyanaagi@nifty.com	第1外科 S60
39	日高 真	300-1152 しんクリニツク：茨城県稲敷郡阿見町本郷2丁目20-4 305-0032 茨城県つくば市竹園1丁目9-5 竹園レジデンス602号室	029-875-5686 050-5824-1986	hidaka.sin@maroonplala.or.jp hidaka.sin@silklplala.or.jp	筑波大精神科 S60
40	松岡 直樹	850-0832 長崎内科リウマチ科病院：長崎市油屋町1-21 850-0037 長崎市金屋町9-9-1301	095-822-3151 095-829-4077		第1内科 S60
41	高須 勝也	851-2126 常葉会 長与病院：西彼杵郡長与町吉無田郷647 859-0407 諫早市多良見町シーサイド20-133	095-883-6668 0957-43-2654		第2外科 S61
42	中里 貴浩	811-2232 栄光病院消化器内科：福岡県糟屋郡志免町別府西3-8-15 811-2103 福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3-19-5	092-935-0147 092-934-3648	nakazato@ymtbbic.jp tnakazato@eikoh.or.jp	内科 S61
43	中山 大介	857-8511 佐世保市立総合病院産婦人科：佐世保市平瀬町9番地3 850-0048 長崎市上銭座町12-2	0956-24-1515 095-848-4575		産婦人科 S61
44	青木 幹弘	856-8562 国立病院機構長崎医療センター：大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121 0957-50-0956	aoki@nmchosp.go.jp	小児科 S62
45	石井 久敬	812-0884 石井メンタルクリニツク：福岡県博多区寿町2-4-11 814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜4-17-9	092-585-3200		福岡大学精神神経科 S63
46	岡野 邦彦	852-8117 長崎市平野町14-13 セントヒルズ平野102号		kuni@netnagasaki-u.ac.jp	整形外科 S63
47	朝長 道生	843-0301 朝長医院：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2188 843-0301 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2191	0954-43-2117 0954-43-2132	tononaga1962@gmail.com	第2内科 S63
48	中島 寅彦	812-8582 九州大学医学部耳鼻咽喉科：福岡県福岡市東区馬出3-1-1 814-0113 福岡県福岡市城南区田島6-2-24	092-642-5668 092-871-5238		九大耳鼻科 S63

	氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
49	天野 秀明	851-1132 852-8027	天野内科：長崎市小江原2-35-16 長崎市城山台2丁目30-3	095-894-8800 095-864-1101	froahtgymph@ybb.ne.jp cfrnu@ceres.dti.ne.jp	呼吸器科 H1
50	金色 正広	805-8534 805-0061	北九州市立八幡病院麻酔科：福岡県北九州市八幡東区西本町4-18-1 福岡県北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-662-6565 093-663-3055	kanairo@mars.dti.ne.jp	麻酔科 H1
51	吉川 公正	808-0016	福岡県北九州市若松区原町9-6	093-751-6528	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	脳外科 H1
52	旭 隆宏	811-3414 811-4163	あさひ小児科クリニック：福岡県宗像市光岡5番1号 福岡県宗像市自由ヶ丘1-9-7	0940-34-8555 0940-33-1492	asahi-clinic@orange.plala.or.jp	九大小児科 H2
53	白藤 智之	852-8125 852-8151	聖ラフランス病院：長崎市小峰町9-20 長崎市泉1-3-4	095-846-1888 095-848-0191	shirahuji@hotmail.com	第1外科 H2
54	寺尾 保信	113-8677 152-0012	東京都立駒込病院：東京都文京区本駒込3-18-22 東京都目黒区洗足2-13-3	03-3823-2101 03-6303-3728	y.terao@cick.jp	慈恵大形成外科 H2
55	中村 晋	813-0042 813-0031	中村内科医院：福岡県福岡市東区舞松原1丁目1-6-18 福岡県福岡市東区青葉5-9-9	092-681-7363 092-691-1127	ryo-r@miji4u.or.jp	九大第2内科 H2
56	山本 太郎	852-8523 853-8102	長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野：長崎市坂本1-12-4 長崎市坂本1-11-15-12	095-819-7889 090-7462-6959	y-taro@nagasaki-u.ac.jp	熱研社会環境 H2
57	生田 安司	802-0042	福岡県北九州市小倉北区足立3-5-6	093-981-5187	ikuta@oitakenbyo.jp	第1外科 H3
58	市川 辰樹	852-8501	長崎大学病院消化器内科：長崎市坂本町1-7-1	095-819-7267	ichikawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1内科 H3
59	鈴木 康弘	980-0874	宮城県仙台市青葉区角五郎2-2-15-201	022-714-4350		熊大第2内科 H3
60	田中 邦彦	852-8523 852-8035	長崎大学医学部第1薬理：長崎市坂本1丁目12-4 長崎市坂本1丁目1-15 704号室	095-819-7043 095-845-8355	kunmy-ta@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 H3
61	山本 修	850-0004 850-0015	山本外科医院：長崎市下西山町1-5-1F 長崎市矢ノ平2丁目2-23	095-823-8585 095-824-4600		第2外科 H3
62	劉 中誠	850-0034	長崎掖済会病院：長崎市樺島町5番16号	095-824-0610	cryu@ruby.ocn.ne.jp	第1外科 H3
63	黒木 保	852-8102 852-8501	長崎大学移植消化器外科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市小江原4-18-3	095-819-7316 095-847-8964	tkuroki-g@urni.nac.jp	第2外科 H4
64	佐藤 俊一	380-8582 380-8083	長野赤十字病院神経内科：長野県長野市若里5丁目22-1 長野県長野市三輪4-2-22 グランドハイヴ三輪102号	026-226-4131 026-232-7970	ssato@nagano-med.jrc.or.jp	信州大第3内科 H4

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
65 趙 成三	852-8101 852-8061	長崎大学病院神経内科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市滑石5丁目4-80-404	095-819-7370 095-856-3793	chos@netnagasaki-u.ac.jp chos@nagasaki-u.ac.jp	麻酔科 H4
66 津田 純	154-0014 105-0001	津田耳鼻咽喉科：東京都世田谷区新町3-20-1「ジェルジェ」校新町206 東京都港区虎門3-14-1 2604	03-5450-7237 050-5803-8152	jun_ava_kaoru@nifty.com	H4
67 中野 基	850-8555 852-8116	長崎市立市民病院：長崎市新地町6-39 長崎市平和町8-4 レジデンス「シャル」平和町医学部通り305	095-822-3251 095-865-7299	motoinakano@hotmail.com	形成外科 H4
68 福井 雅士	850-0045 852-8015	井上病院：長崎市宝町6-12 長崎市春木町15-55	095-844-1281 090-2510-0473	fukumasashi@hotmail.com	形成外科 H4
69 南 恵樹	852-8501 852-8108	長崎大学病院第2外科：長崎市坂本1-7-1 長崎市川口町1-1-1213	095-819-7316	shimharianig@umh.net	第2外科 H4
70 竹下 浩明	852-8501 852-8133	長崎大学病院第1外科：長崎市坂本町7-1 長崎市本原町19-8	095-819-7304 095-800-2696	takehiro@nagasaki-u.ac.jp kondos@nagasaki-u.ac.jp	第1外科 H5
71 近藤 新二	852-8521 850-0001	長崎大学薬学部薬物治療学：長崎市文教町1-14 長崎市西山4丁目511-301	095-819-2448 095-844-7177		形成外科 H6
72 斎藤 将隆	811-3423 805-0016	峰須賀病院：福岡県宗像市野坂2650 福岡県北九州市八幡東区高見町1-2-25-209	0940-36-3636 093-653-2246	masataka5656@icohome.ne.jp masaka@anes.meddosaka-u.ac.jp	麻酔科 H6
73 阪上 学	662-0971	さかうえクリニック：兵庫県西宮和上町1-16 日本生命西宮ビル1F	0798-38-8388	sakaue@anes.meddosaka-u.ac.jp gsakaue@gmail.com	大阪大麻酔科 H6
74 松尾 敏明	890-0033 890-0055	田上記念病院：鹿児島県鹿児島市西別府町1799 鹿児島県鹿児島市上荒田町34-1「プレイス」上荒田1001号	099-282-0051 080-5283-6203	matsuo@nakanozaitakuor.jp	H6
75 岩井 敏郎	814-0104	福岡県福岡市城南区別府7丁目5-35-1005	092-821-7225		九大心臓血管外科 H7
76 宗 英吾	852-8117 850-0025	宗耳鼻咽喉科クリニック：長崎市平野町10-2-301 長崎市今博多町35-1001	095-844-5655 095-826-2472		耳鼻科 H7
77 中桶 了太	859-5393 852-8027	国民健康保険平戸市民病院：平戸市草積町1125-12 長崎市城山台2-10-6	0950-28-1113 090-7986-2728	nakaake@nagasaki-u.ac.jp nakaake@netnagasaki-u.ac.jp	第1薬理 H7
78 藤本 武士	857-8511	佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515	tfujimoto@hospitaltagawa.fukuoka.jp	第1内科 H7
79 安田恵多良	560-0021 560-0045	やすだクリニック：大阪府豊中市本町2-4-28 大阪府豊中市2-1-7-1	06-6846-2222 06-6531-3133	yasuda-clinic@piano.ocn.ne.jp coffee35@mx6.tikine.jp	大阪大脳外科 H7
80 古賀 洋安	830-0011	久留米大学病院麻酔科：福岡県久留米市旭町67番地	0942-35-3311	hiroko@mx6.tikine.jp	久留米大小児科 H8

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
81 城田 利彦	089-2622 043-0416	広尾町国民健康保険病院内科：北海道広尾町公園通南4-1 北海道二海郡八雲町熊石雲石町554-1	090-9072-8467	toshitnrota@hotmail.co.jp	九大心臓血管外科 H8
82 関 徹	272-0813 140-0002	静和会中山病院：千葉県市川市中山2-10-2 東京都品川区東品川4-10-18-1507	047-334-3480 03-3450-3813	QWPO7174@nifty.ne.jp tr-seki@sa2.so-net.ne.jp	東北大精神科 H8
83 武野 正義	852-8102 851-2127	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環病態制御内科：長崎市坂本1丁目7-1 西彼杵郡長与町高田郷2098-3	095-819-7288	mtakeno@net.nagasaki-u.ac.jp	第3内科 H8
84 福田 顕三	838-0141 830-0047	嶋田病院同医院外科：福岡県小郡市小郡217-1 福岡県久留米市津福本町6-47	0942-72-2236 0942-31-5715		第2外科 H8
85 山里 昌司	825-8567 802-0971	小波瀬病院：福岡県京都郡荏田町新津字1598 福岡県北九州市小倉南区守垣本町2-5-20-805	0930-24-5211		第3内科 H8
86 岡 真一郎	870-0857 870-0875	大分県大分市青葉台1丁目1-5 大分県大分市明礪四組	097-543-1177 097-507-8947		第2内科 H9
87 岡田和一郎	440-8510 440-0033	国立療養所豊橋医療センター：愛知県豊橋市飯村町字高山11番地 愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301	0532-62-0301 090-1625-8528		H9
88 牟田口 滋	839-0801 830-0037	古賀病院21：福岡県久留米市宮ノ陣3丁目3番8号 福岡県久留米市諏訪野町2010-4	0942-38-3333	shigemuta@hyabiq.jp	九大整形外科 H9
89 大石 正雄	904-0011 904-2165	中部徳州会病院：沖縄県沖縄市照屋3-20-1 沖縄県沖縄市宮里3-25-47-301	098-937-1110 098-989-3727	moishi999@hotmail.com	形成外科 H10
90 古賀 聖士	852-8501 852-8102	長崎大学病院循環器内科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市坂本1丁目4-5-207	095-819-7288 095-849-6085	kogasez@gmail.com	第2内科 H10
91 崎元 暢	173-8610 108-0072	日本大学医学部：東京都板橋区大谷口上町30-1 東京都港区白金2-7-17-1102	03-3972-8111 03-3443-3313	torusaki@med.nihon-u.ac.jp toruotto@mwe.biglobe.ne.jp	日大眼科 H10
92 山崎 励至	857-0043	佐世保市天満町2-9-301		reishin@hospital.saseboranagasaki.jp	原研内科 H10
93 高橋 優二	852-8501 852-8151	長崎大学病院へき地病院再生支援教育機構：長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市泉1-17-3	095-848-2841	yujibika@gmail.com	H11
94 谷川 治	815-0071	福岡県福岡市南区平和1-30-13	090-4584-1027	os-tanikawa@a-kensei.jp	H11
95 牧野 淳		Department of Medicine, Interfaith Medical Center 110-06 72nd Ave Apt 1A, Forest Hills, New York 11375		jummakinony@gmail.com	H11
96 宮崎 浩充	990-0044	宮城県仙台市青葉区上杉5-8-18-204	022-264-1332	hmiya1104@yahoo.co.jp	耳鼻科 H11

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
97 吉野 俊平	820-8505 820-0011	飯塚病院：福岡県飯塚市芳雄町3-83 福岡県飯塚市柏の森1032-1-609	0948-22-3800	syoshiz6@aol.com	H11 山口大第2内科
98 澁谷 正樹	753-0078	済生会山口病院内科：山口県山口市緑町2-11	083-901-6111	bcs8m-sby@asahi-net.or.jp	H12 神戸大第2内科
99 土井 晋平	507-8511	多治見市民病院内科：岐阜県多治見市前畑町3丁目43番地	0572-22-5211		H12
100 福田 義文	710-8602	倉敷中央病院総合診療科：岡山県倉敷市美和1-1-1	086-442-0210 090-4578-6523	a807445@nocomo.jp	H12
101 程野 茂樹	790-0826 799-3111	松山市赤十字病院麻酔科：愛媛県松山市文京町1番地 愛媛県伊予市下吾川676-1	089-924-1111 089-983-3504	hodonod5@net.ne.jp	H12 愛媛大麻酔科
102 松永 祥志	857-0056	佐世保市立総合病院麻酔科：佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515		H12 脳外科
103 及川 将弘	811-1395 810-0014	九州がんセンター乳癌科：福岡県福岡市南区野多目3丁目1-1 福岡県福岡市中央区平尾5丁目3-28-203	095-541-3231 090-1167-8282	oimasa@iris.dti.ne.jp	H13 麻酔科
104 森 創	113-8421 272-0033	順天堂大学公衆衛生学教室：東京都文京区本郷2-1-1 千葉県市川市市川南4-1-5-108	03-3815-8411 090-8399-3821	moir-hajime@rnhw.go.jp neomoris@k2.dion.ne.jp	H13 H13
105 ヲイケンロシ	300-1296 300-1236	牛久愛和総合病院：茨城県牛久市猪子町896 茨城県牛久市田宮町3-11-9 フラッツだけ201号	029-873-3111 090-9408-8805		H13 心臓血管外科
106 松本 周平	852-8102 852-8041	長崎大学病院麻酔科：長崎市坂本1-7-1 長崎市清水町3-23-506	095-819-7370 095-843-2536		H13
107 諸藤 陽一	807-0853	福岡県北九州市八幡西区鷹見台1-2-23 百々孝夫方	093-603-2218		H13
108 蓬菜 彰士	856-8562 852-8132	国立病院機構長崎医療センター：大村市久原2丁目1001-1 長崎市扇町23-4-201	095-819-7041 090-1369-5720		H14 精神神経科
109 青山 英和	742-0032	山口県柳井市古開作20-1-13			H14 山口大第2内科
110 西條 知見	771-1220	西條耳鼻咽喉科：徳島県板野郡藍住町東中富字趾傍示22-7	088-692-8711 090-6890-8750	t-saijo@urni.ac.jp	H14 第2内科
111 高木 理博	852-8501 852-8133	長崎大学病院熱研内科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市本原24-2	095-819-7384 095-865-7651	rhiaku1@muebiglobe.ne.jp	H14 熱研内科
112 田邊 孝大	130-0022 130-0022	都立墨東病院救急救命センター：東京都墨田区江東橋4丁目23-15 東京都墨田区江東橋4丁目13-25 都立墨東病院医師公会322号	03-3633-6155 090-9604-7079		H14 麻酔科

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
113 渡邊 庸平	989-3126	宮城県立こども病院：宮城県仙台市青葉区落合4丁目3-17	022-391-5111	nabe-76@eagle.ocn.ne.jp	小児科 H14
114 崎元 晋	565-0871	大阪大学眼科学教室：大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-5111	skmtssm7923@yahoo.co.jp	阪大眼科 H15
115 猪狩 圭介	849-0915	佐賀県佐賀市兵庫町大事藤木43-1 プロムナード夢咲南棟203			H16
116 近藤 学	753-8519 753-0825	総合病院山口赤十字病院内科：山口県山口市八幡馬場53-1 山口県山口市矢原町12-7 アークデントクレイル矢原205号	083-923-0111	golgo0307@hotmail.com	H16
117 田浦 康明	852-8502 852-8002	長崎大学病院腫瘍外科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市富士見町16-7-301	095-819-7304		H16
118 豊田 啓介	859-3615 859-3614	長崎川棚医療センター：東彼杵郡川棚町中組2005-1 東彼杵郡川棚町中組郷1511 ゴールドスター-201号	0956-82-3121 090-7150-6905	enzokun7@yahoo.co.jp	H16
119 山口 仁平	852-8501 852-8134	長崎大学病院耳鼻科：長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市大橋町23-7 サンパーク文教通り603		ynrnpai@hotmail.com	H16
120 吉武 記一	753-0814 747-0843	公益財団法人山口県予防保健協会：山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館3F 山口県防府市東仁井町23-33	083-933-0008 0835-28-7017	kitchi_12_23@yahoo.co.jp	H16
121 高田 潤	545-8586 545-0051	大阪市立大学病院整形外科：大阪府大阪市阿倍野区旭町1-5-7 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-3-3 アペノリーザ705号			H17
122 荒木孝太郎		不明	090-7152-2717	kotaro002@hotmail.com	H18
123 夏田 孔史	852-8102	長崎大学移植消化器外科：長崎市坂本1丁目7-1		no_rain_no_rainbow1018@yahoo.co.jp	H18
124 冬野 誠也	801-0833	福岡県北九州市門司区清滝1丁目6-8 サンパーク清滝Ⅱ 102号室	090-2514-6891	seijet@icomhome.ne.jp	H18
125 山道 忍	857-1195 851-1131	佐世保中央病院消化器内視鏡センター：佐世保市大和町15 長崎市上浦町112	095-847-1511 095-841-0756	bwspn147@ybb.ne.jp	H18
126 大場 修治	901-0493	南部徳州会病院：沖縄県島尻郡八重瀬町字外間171番地1	098-998-3221	s301027r@hotmail.co.jp	H19
127 茅田 洋之	653-0013 652-0803	神戸市医療センター西市民病院：兵庫県神戸市長田区一番町2丁目4番地 兵庫県神戸市兵庫区大開通5丁目2-33-202	078-576-5251 090-5285-5253	inazawachainsaw1982@yahoo.co.jp	H19
128 末下 雅也	855-0861 853-0205	長崎県島原病院：島原市下川尻町7895番地 島原市新湊1丁目32-2	0957-63-1145 090-9599-0007	apple47@themis.ocn.ne.jp	H19

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
129 西山 光郎					
130 原口 雅史	854-8501 852-8117	健康保険諫早総合病院：諫早市永昌東町24-1 長崎市平野町10-9-202	0957-22-1380 090-8761-3734		H19 消化器内科
131 松浦 良樹	880-0041 880-0032	古賀総合病院：宮崎県宮崎市池内町数太木1749-1 宮崎県宮崎市霧島2丁目135-102	0985-33-9819		H19
132 福島 真典	854-0022	諫早市幸町23-23 ラ・ソレイユI 203号室	090-4283-4897	ma_fu_nurrc@yahoo.co.jp	H20
133 村田 慎一	464-8681 464-0039	愛知県がんセンター中央病院：愛知県名古屋市中千種区鹿子殿1番1号 愛知県名古屋市中千種区日和町1-14-16 グランドハイリス本山A-2	052-762-6111 080-5609-9432		H20
134 日野 直之	870-0028	大分県大分市新町12-11 パークレジデンス新町1102号	0956-33-7151 090-4516-0301	nao_hino_0921@yahoo.co.jp	H21
135 長 哲太郎	555-0024 555-0024	財団法人淀川勤労者厚生協会西淀病院：大阪府大阪市西淀川区野里3-5-22 大阪府大阪市西淀川区野里1-12-24-601	06-6472-1141 090-6989-8944	tetsutarcho@gmail.com	H21
136 山本 悠造	815-8555	福岡赤十字病院呼吸器内科：福岡県福岡市南区大楠3丁目1-1	092-521-1211		H21
137 笠原 優人	607-8062	洛和会音羽病院：京都府京都市山科区音羽珍事町2	075-593-4111		H21
138 江頭 崇	857-0134	長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191		H21
139 小松 直広	853-0031	長崎県五島中央病院：五島市吉久木町205	0959-72-3181		H21
140 高橋 一臣	466-8650 466-0815	名古屋第二赤十字病院：愛知県名古屋市中昭和区妙見町2番地9 愛知県名古屋市中昭和区山手通1-11 マゾン・ト山手501号	052-832-1121	omiomimi1031@gmail.com	H21
141 梅田 雅孝	857-1195 857-0863	佐世保中央病院：佐世保市大和町15 佐世保市三浦町2-27-602	0956-33-7151	masataka0807@m2.gyaone.jp	H22
142 古賀 俊充		不明			
143 友延 寛	852-8567 815-0083	田川市立病院：福岡県田川市大字楠1700番地2 福岡県福岡市南区高宮2-11-26-301	0947-44-2100 090-2964-7335	tomonobe@live.jp	H22
144 濱口 陽	857-8511	佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9番地3	0956-24-1515 090-2969-3554	hamahama0216@softbank.jp	H22

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院：勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
145 松岡 若利	815-8588 815-0074	公立学校共済組合九州中央病院：福岡県福岡市南区塩原3丁目23番1号 福岡県福岡市南区寺塚1丁目6番5号 パロマライラ寺塚105号	092-541-4936 090-5725-8729		H22
146 岩津 伸一	857-8511 857-1174	佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9-3 佐世保市天神5-2-18	090-7448-4206		
147 上木 智博	850-0953 850-8102	上戸町病院：長崎市上戸町4丁目2-20 長崎市坂本1-13-53-203	090-2501-9041		
148 大橋 和明	852-8501 852-8151	長崎大学病院：長崎市坂本町1-7-1 長崎市泉2丁目23-5-204	090-5928-4023	ling_dome2ne440zei-to_ppa.3@docomone.jp	
149 三反田拓志	279-0001 279-0002	東京ベイ浦安市川医療センター救急科：千葉県浦安市当代島3-4-32 千葉県浦安市北栄4-6-25-503	047-351-3101 090-9799-6855	tand-san@ezweb.ne.jp	
150 北村 健二	854-8501	健康保険諫早総合病院：諫早市永昌東町24-1	090-8227-1239	khealthy-second0412@ezweb.ne.jp	
151 東 祥嗣	853-0031	五島中央病院：五島市吉久木町205番地	0959-72-3181 090-7448-4206	yositsughn.0415@ezweb.ne.jp	
152 松浪 周平	558-0056	大阪府大阪市住吉区万代東3-1-50 A101	090-8288-9360	jack-pot.xxx.top-kcaj@ezweb.ne.jp	
153 中原 知之	856-8562 856-0835	大村医療センター：大村市久原2-1001-1 大村市久原2-1001-1 研修医宿舎松館101号室	090-1948-9392	tom.0131@ezweb.ne.jp	
154 藤田 拓郎	852-8501 852-8107	長崎大学病院：長崎市坂本町1-7-1 長崎市浜口町1-2 ベルベデーレ井石502	090-9656-2234	flowershop-fuzitaku-5go0430@qvodafone.ne.jp	
155 川口祐太郎	852-8501 852-8105	長崎大学病院：長崎市坂本町1-7-1 長崎市目覚町7-15 ルクソール錦302号室	080-4270-2327	The_Zombies.0727@softbank.ne.jp	
156 陣野 太陽	856-8562 856-8116	国立病院機構長崎医療センター：大村市久原2丁目1001-1 大村市古賀島町111-42 エバーグリーン207号室	095-819-7041 090-9484-1020	jimpo@i.softbank.jp	
157 水野 貴基	852-8501 340-0214	長崎大学病院：長崎市坂本町1-7-1 埼玉県久喜市葛梅1-10-4	080-1061-5404	norinorinizurno@docomone.jp	

物故者 神田 源太
小村三代治
村山 晋
松尾 圭一
今里 雅之
山本 経之
富海 五郎

退会者 矢次 登

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考・卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業・S19
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3034	開業・S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業・日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑ヶ丘町1-4	095-846-2052	開業・S19
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業・S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業・S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町17-1	095-861-3576	開業・S30

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号	役職 備考
須山 弘文	850-0803 玉木女子短大:長崎市風頭1-13 852-8065 長崎市横尾二丁目4-5	095-822-8694 095-856-1321	顧問 前法医学教授
尾崎 正若	861-1102 熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761	顧問 前第二薬理教授
山口 三次	852-8145 長崎市昭和町二丁目5-14	095-844-5272	顧問 前県ボート協会会長
吉田 恒雄	850-0811 長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979	顧問 県ボート協会会長
井上 健一郎	850-0045 井上病院:長崎市宝町8-9 852-8102 長崎市坂本一丁目2-5	095-844-1281 095-846-2218	事務局担当
西條 知見	852-8501 長崎大学病院第二内科 : 長崎市坂本1丁目7番1号	095-819-7274	会計

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

履修番号	学籍番号	氏 名	ふりがな	出身校	メールアドレス (携帯)	入学年度
308014	20813014	大井隆之介	おおい りゅうのすけ	長崎北陽台	the-12st-victorist77@ezweb.ne.jp	H20
308019	20813019	粕谷 泰祐	かすや たいすけ	明和	pouring-water.1354@swan.ocn.ne.jp	H20
308028	20813028	上瀧 善邦	こうたき よしくに	明善	az_u-re.m-o-n.44cj92@ezweb.ne.jp	H20
308108	20813108	丹下 寛也	たんげ ひろや	愛光	num.tang@live.com	H20
308114	20813114	朝野 寛規	ともひ ひろみ	久留米附設	baa000403008@sgr.bbiq.jp	H20
308134	20813134	三渚 正秀	みつま まさひで	福岡嘉穂	gu-tara_sherry0723@docomo.ne.jp	H20
309024	20913024	嶋打 周	かもうち あまね	ラ・サール	glimmer37@q.vodafone.ne.jp	H21
309026	20913026	菊田 龍	きくた りゅう	頼明館	ryu-tennis.love@docomo.ne.jp	H21
309047	20913047	竹田 一博	たけだ かずひろ	甲陽	p-o-oh@ezweb.ne.jp	H21
309101	20913101	田尻 昌士	たじり まさし	福岡大学附属大濠	hataesontyou@ezweb.ne.jp	H21
20110005	20110005	有賀 健治	あるが けんじ	愛光	ktmstar-911@docomo.ne.jp	H22
20110007	20110007	池田 英史	いけだ えいし	高岡	a-c7373.eee9-11.333@docomo.ne.jp	H22
20110030	20110030	川口 雄史	かわぐち ゆうし	長崎日大	mow@i.softbank.jp	H22
20110047	20110047	佐藤 晋平	さとう しんぺい	高槻	summer-of-love.1967@ezweb.ne.jp	H22
20110118	20110118	二宮 直樹	にのみや なおき	青雲	n-aikotoba238bluetooth-h.m.k.u@docomo.ne.jp	H22
20110131	20110131	福田 龍一	ふくだ りゅういち	日本大学習志野	os.araragi.bros-yk.kisaragi@docomo.ne.jp	H22
20111002	20111002	新垣 慶人	あらがき よしと	愛光	jalana.jtb@docomo.ne.jp	H23
20111008	20111008	上原 裕規	うえはら ゆうき	ラ・サール	flying-pig-spirit@docomo.ne.jp	H23
20111034	20111034	児嶋 知仁	こじま ともひと	大濠	faster_than_a_bullet_0307@docomo.ne.jp	H23
20111071	20111071	西原 聖仁	にしはら しょうじ	西大和学園	green_twilight@softbank.ne.jp	H23
20111072	20111072	西原 新也	にしはら しんや	久留米附設	deryck.w.0..core_respectsum@ezweb.ne.jp	H23
20111102	20111102	水野 弘士	みずの こうし	済美平成	1dd27e3fd78epd@softbank.ne.jp	H23
20112108	20112108	山成 康洋	やまなり やすひろ	宮崎第一	dwyane_ys15@i.softbank.jp	H24
20112052	20112052	谷歩 康一	たにほ こういち	高岡	k1t2h9j@i.softbank.jp	H24
20112018	20112018	尾崎 昌士	おざき まさし	済々黉	one.fr-1fe.aik-70v@docomo.ne.jp	H24
20113009	20113009	磯部 優作	いそべ ゆうさく	小倉	m.d.cream@docomo.ne.jp	H25
20113039	20113039	下永晃一郎	しもなが こういちろう	小倉	anfang019@ezweb.ne.jp	H25
20113040	20113040	白石 健悟	しらいし けんご	長崎北陽台	refrain.ws.as@ezweb.ne.jp	H25
20113057	20113057	徳永 高帆	とくなが たかほ	久留米附設	takaho.34@ezweb.ne.jp	H25

長崎大学医学漕艇部 公式ホームページ

since 2000

http://wiki.livedoor.jp/chodai_rowing/

～ Google で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート部の紹介、試合の記録、イベント情報、
部員ブログなどを載せています。

OB 専用掲示板もありますので卒業生同士の連絡に
もご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>

編 集 後 記

今回は先生方、部員の皆の協力でスムーズに原稿が集まりました。

編集は初めてで難しいこともありましたが、大同印刷会社の毎熊さんのご協力によって、無事発刊できました。ありがとうございました。

編集者代表 池田 英史

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 _____ 年卒 _____

現住所 _____

勤務先 _____

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという时期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。